

くもにまく
夢のかけらを

TAKARABUNE 2023



TAKARABUNE 2023 | 3.15_水→3.19_日

埼玉県立近代美術館 地階一般展示室 1

目次

ごあいさつ 三浦清史(SMF代表、建築家)	p1
各出展者の出展記録・出展者メッセージ	p2~45
各出展者のエントリーシート	p46~49
アートの素・パントリー&自由創造ワークショップ報告	
アートマイスター担当:加藤典子、SYUTA、みゃうか、矢花俊樹	p50~51
TAKARABUNE 2023 会場レイアウト 長野 恒(SMF運営委員)	p52
SMF履歴書	p53
TAKARABUNE 2023 関連事業一覧	p54~55
TAKARABUNE 何処へ 三浦清史(SMF代表)	p55
来場者アンケート回答概要	p56~57(表3)
TAKARABUNEの15年 略年譜 中村誠(SMF運営委員)	p57(表3)

TAKARABUNE 2023 「夢のかけらを くもにまく」出展者・作品名・掲載ページ一覧

No.	作者名(氏名)	作品名(題名)	掲載ページ
1	石崎幸治	独自の世界をつくる	2~3/46
2	石上城行	「土地の記憶」プロジェクト	4~5/46
3	加藤こどもの造形教室	加藤こどもの造形教室 ~アルソミトラ~	6~7/46
4	かわにしすみえ	人形と胸像と仲間 / ミアゲルオモイ	8~9/46
5	カワムラアツノリ・松元日奈子	drab	10~11/47
6	シミズフローラルデザインスクール	輝きを求めて	12~13/47
7	SYUTA(三友周太)	雲集霧散=うんしゅうむさん	14~15/47
8	suzu	私の夢はおまかせで	16~17/47
9	田中清隆	影光浴「そのかけら」	18~19/47
10	出店久夫	原図とブックアート	20~21/47
11	電子音響ビープルプロジェクト	電子音響ビープルプロジェクト2022	22~23/48
12	中村元	写真 中村元の世界「ゴンちゃんと仲間たち」干支 癸兔	24~25/48
13	中村隆	SMF Press 2010 vol.1→2023 vol.52 Archives	26~27/48
14	西尾路子	まちがえやすい わ・ね	28~29/48
15	はた みき	Layered / 積み、重ね	30~31/48
16	菱田祐一郎	RECORD_T45	32~33/48
17	二口孝絵	保護うさぎの似顔絵	34~35/49
18	M. HONDA	2度と無い、夢の時間を描き留める	36~37/49
19	みゃうか	ゆらゆらとゆれて	38~39/49
20	森久憲生(上尾アートセンター)	『THE archive 2022』in the Ageo Art Center	40~41/49
21	矢花俊樹	HASHIOKI「あんなもの こんなもの」	42~43/49
22	社会芸術 / ユニット・ウルス*	報告:「野良の芸術2022 さぎ山の現場III 熱・分解と融合」より	44~45/49

(*出展者:柳井嗣雄、吉川信雄、長谷川千賀子、大原由、石崎幸治、蒼浩人、立松節子、長田淳一、大原由、吉田富久一)

ごあいさつ

「夢のかけらを くもにまく TAKARABUNE 2023」へようこそ。

昨年耕した雲に今年は種を蒔きます。種は「夢のかけら」、かけらはピースです。雲の中でジグソーパズルが埋まるように夢のかけらがはめ込み合えば、来年にはさらに大きな夢が描かれるかもしれません。だから、その絵を期待して宝船をローマ字でサインしてみました。新たな夢が芽生えるように、そしてその夢が実現されるように。

TAKARABUNEは、実現したいと思うアートプロジェクトの素を夢として自由に語り表現するアンデパンダン形式の展覧会です。いまやぼくたちSMF(サイタマミュージアムフォーラム)を象徴する企画のひとつになりました。展示された作品やアイデアが、意外な出会いによってあらたに動き出し、出会ったもの同士がつながり、さまざまな活動が発生し、あらたな作品が出現する、そうしたアートのプラットフォームの役割もはたしてきました。

さあ、TAKARABUNE 2023 開幕、お楽しみはこれからです。

「アートの素・パントリー」を覗いてみてください。

個人、団体、企業、さまざまなところから提供していただいた、眠っていたアートの表現につながりそうなモノを会場内に集めます。集まったモノがアートの素、それぞれ創作のための夢のかけらです。それらを使い創作の場と時間をつくるワークショップを行います。それがアートの素・パントリー「自由創造ワークショップ」です。会場に入っすぐ左、このパントリーの器、オープンアトリエがあります。そのデザインは、ソール・バスでもマーク・ニューソンでもなく、この企画の生みの親 加藤典子さんと展示会場をレイアウトした長野恒さんの協働です。

SMFはこんな考え方で活動しています。

SMFは既成のジャンルにとらわれない自由な視点からさまざまなアートプログラムを企画し、アートをめぐって多くの人がつながってゆくためのプラットフォームです。

SMFはさまざまな生き方をしてきた人が集い、触発し合いながら、まだ見たことも聴いたことも経験したこともないようなモノゴトを創りだすこと、これまで見えなかったモノゴトが見えるようになること、これまでとモノゴトが違って見えるようになり、生きることが豊かになることを目指して活動します。

SMFは埼玉県立近代美術館に事務局を置き、埼玉県内各地のミュージアムをキーステーションとし、美術、建築、音楽、文学、ダンス、パフォーマンス、地域活動など、さまざまな領域のメンバーで活動し、そのための事業を企画立案し開催します。

三浦清史(SMF代表、建築家)



独自の世界をつくる 石崎幸治

自分の思いを絵画や彫刻などいかなる手段でも表現して見える形にするのは難しい。ものを作る技術を習得するためには先人の作ったものを参考にする、あるいは学校で先生に教えてもらう必要がある。

技術を習得しても美しいものを作り出すのは難しい。技術が上手なっても独自の視点や自分なりの工夫がないと面白いものができない。それに作り手自身に作る喜びがないと感動を与える作品にはならないと思う。

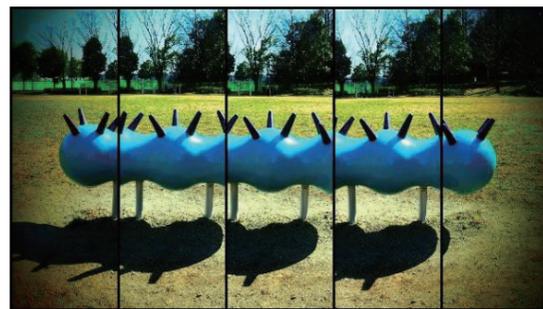
作ったものに独自の世界があると主張しても後世に残るかどうかわかるのは作品を見る人々である。作り手は自分を信じて自分のスタイルを継続・発展させていくしかない。来年も宝船展の会場でお会いしましょう。

多視点風景写真・空想果物

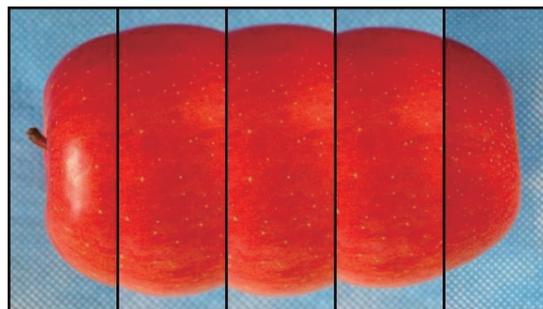
写真は物事を記録する以外に自分が考えたことを表現する手段にもなる。「多視点風景写真」は見ている風景を時間と視点をずらして5分割で撮影した。「果物」はこんな果物があったら楽しいなという空想を形にした。



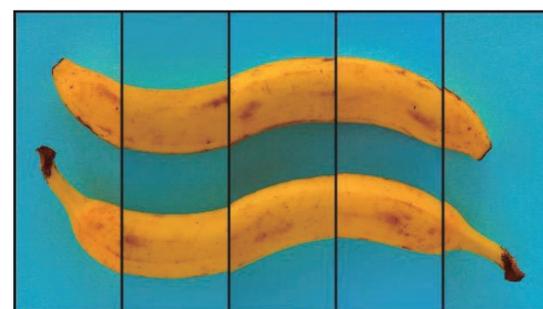
多視点風景写真 その01 回廊



多視点風景写真 その02 遊具



空想果物 リンゴ



空想果物 バナナ

立体錯視(焼き物)

焼き物は今までに見たことのないものを作りたいという思いで作った。「錯視陶器」は見る角度によって形が全く異なって見える。「帽子」は粘土を焼いて作った。



被れない帽子(手前)



錯視陶器(手前と鏡に写る物は同一)

水彩はがき絵

水彩画は写真のごとく描く写実でなく、自分の印象をなるべく簡単な線と色遣いで表現することを目標にしている。45歳のときにある俳優さんが描いた絵に出会って、自分でも描きたくなくなって始めた。習い事を始めるのは年齢でなく思い立ったときである。



作者略歴：石崎幸治(いしざきこうじ) 1947年東京生まれ 早稲田大学商学部卒 写真、随筆、焼き物と水彩はがき絵を嗜む 連絡先 ikkst@yahoo.co.jp 090-3508-5804



「土地の記憶
—歌を詠む者—」マケット
サイズ：W30×D30×H30 cm
素 材：石膏



「土地の記憶
—紡ぐひと—」マケット
サイズ：W20×D20×H20 cm
素 材：石膏

さいたまには2000年以上続く古社「大宮氷川神社」がある。そこには神話の荒ぶる英雄でありながら初めて歌を詠んだとされる神とその妻、さらに自ら国を譲ったとされる風変わりな神様が祭られている。しかし、現代を生きる私たちはその存在を無意識のうちに記憶の彼方へ追いやってしまった。本プロジェクトの作品は、それぞれ「歌を詠む者」、「紡ぐひと」そして「出番の多い彼」という副題を付けた。最終的には約2~3mの大きさに拡大して大宮区役所や埼玉会館のエントランスに「さいたま国際芸術祭2023」の作品として展示する予定だ。この試みは古の神々を現代の芸術祭にお招きすべく、その姿の再現に取り組むことで神々と芸術祭にお越しいただいた方々を繋ぐ媒体となることを望んでいる。



「土地の記憶
—出番の多い彼—」マケット
サイズ：W20×D20×H35 cm
素 材：石膏

「TAKARABUNE2023」—「加藤こどもの造形教室～アルソミトラ～」



3 夢のかけらをくもにまく TAKARABUNE 2023

作品名	加藤こどもの造形教室～アルソミトラ～
作者名	加藤こどもの造形教室
制作年	2022年4月～2023年2月(8月を除く)
制作日数	およそ10ヶ月
技法・材質	紙、段ボールなどを使った工学的な作品
「夢のかけらをくもにまく」と出展作品の関わり	

こどもは未来のかけら。
一つの奥の中であって全てが異なる翼を持つアルソミトラの種のように、一度きりの翼をもってそれぞれに相応しい場所に着地したなら、そこで自分の未来をつくりだそう。
そうやってさまざまな未来が根を張りますように。

作品制作にまつわるエピソードなど

それぞれが興味あることを自由に制作出来るような造形準備を心がけている。参考作品や造形表現のきっかけとなるような素材等を教室のあちこちにそれとなく散りばめておくと、それらに触発されたアイデアを飛躍させたりして、まったく違った作品を制作していくことが多い。制作時間は1時間から3ヶ月ほどと幅があり自分自身が満足する時間で完成させる。1年生～3年生くらいまでは正確に作ったり、丁寧に仕上げることより、とにかく表現欲求が熱いうちにかたちにすることを優先させている。

アルソミトラの種は、グライダー発想のきっかけとなったとされる膜のような翼を持っている。巨大な実の中にある数百個もの種は、その翼のかたちが全て異なっている。然るべき時にその種は風を頼らず高空から次々と滑空するが、翼が異なるがゆえに、それぞれが違う場所に着地し生きていくという。



「TAKARABUNE2023」—「加藤こどもの造形教室～アルソミトラ～」





4 夢のかけらをくもにまく TAKARABUNE 2023

作品名	人形と鏡像と仲間 / ミアゲルオモイ
作者名	かわにしすみえ
制作年	2019年
制作日数	3ヶ月
技法・材質	糊塑 胡粉 グラスアイ 絹 羽毛他
「夢のかけらをくもにまく」と出展作品の関わり	
江戸由来の天然素材 古着の着物等廃材(おが屑、貝の粉、膠)を再利用した作品づくり	
温故知新の気持ちで 人形の眼差しはいつも上をみるように作品制作に取り組む	
夢と希望を忘れない	
作品制作にまつわるエピソードなど	
木目込作品にクッキー型とチョコ型を利用 意外と楽しめました	



「drab」

カワムラアツノリ、松元日奈子

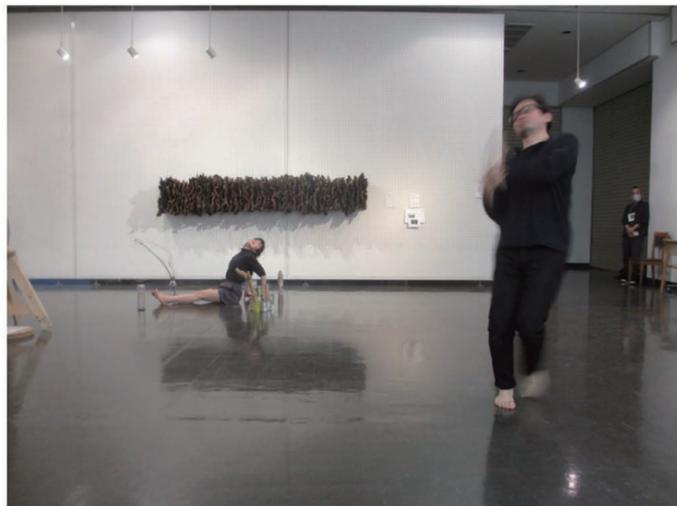


原風景を作品にしたいと思いました。原風景に人物はいません。しかし、ダンスは身体を素材にした表現です。人物のいないモチーフに身体をどのようにリンクさせるかを考えました。

原風景に没入すること、原風景の中のモノたちに身体を同化させること、そして、原風景を俯瞰でみること。俯瞰で見たとき、人物が見え、モノと対峙する身体が見え、その間にある空気が見えました。



記憶から消せない原風景が自分の中にある。そこにはガビがいる。寒くて、寂しくて、乾燥している。風のある日、私はそこにいた。そこが好きだけれど、帰りたくない。



輝きをもとめて

シミズフローラルデザインスクール

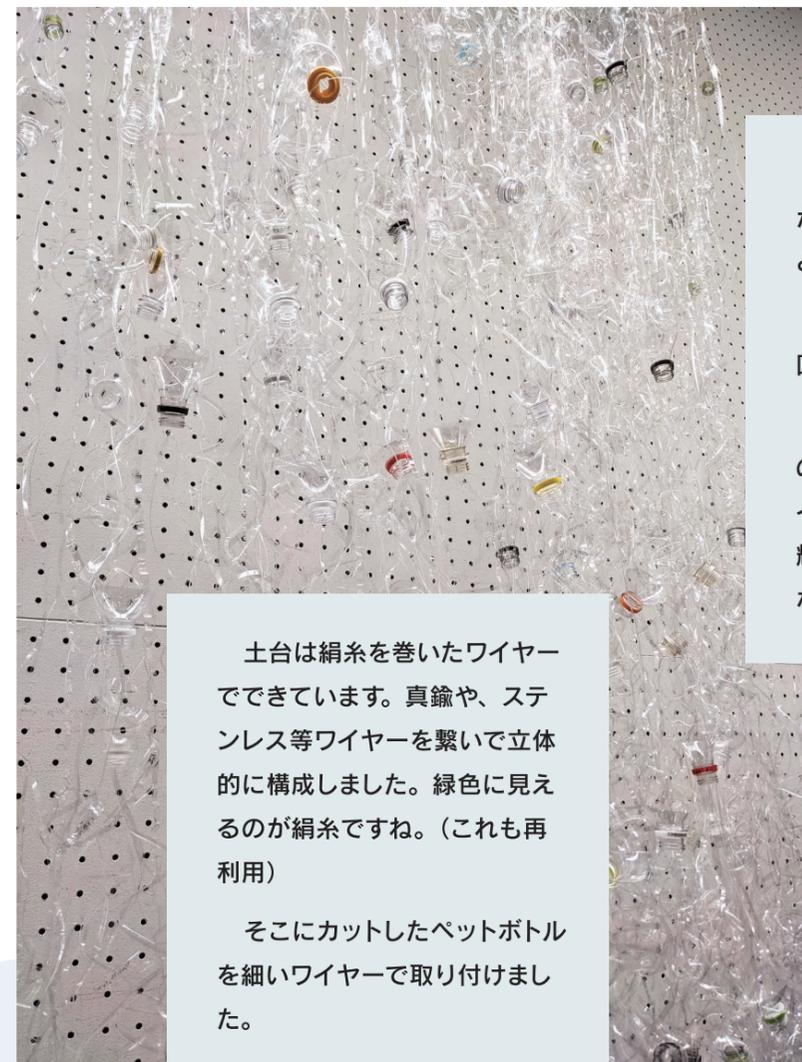
『夢のかけらを雲にまく』から
発想を飛ばして決めたテーマは

循環

です

武蔵浦和にありますシミズフローラルデザインスクールのメンバーがこの作品を作成しました。
雲が常に動き続けそこから雨になって地に戻るという循環。

サステイナブル、自然のサイクルに焦点を当て、**ペットボトル**を再利用することにより、テーマを再現してみました。



土台は絹糸を巻いたワイヤーでできています。真鍮や、ステンレス等ワイヤーを繋いで立体的に構成しました。緑色に見えるのが絹糸ですね。(これも再利用)

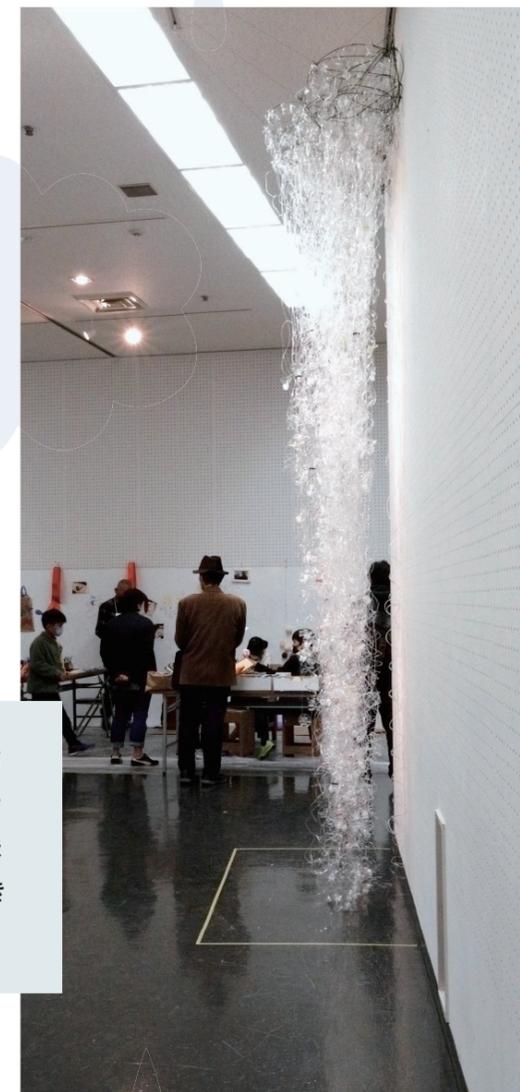
そこにカットしたペットボトルを細いワイヤーで取り付けました。

学校の生徒さんたちやそのご家族にも協力してもらい、約50名でペットボトルをせつせとカットして、300個くらいできました。

ペットボトルはとても透明感があり、カットして吊り下げると流水のように見えます。

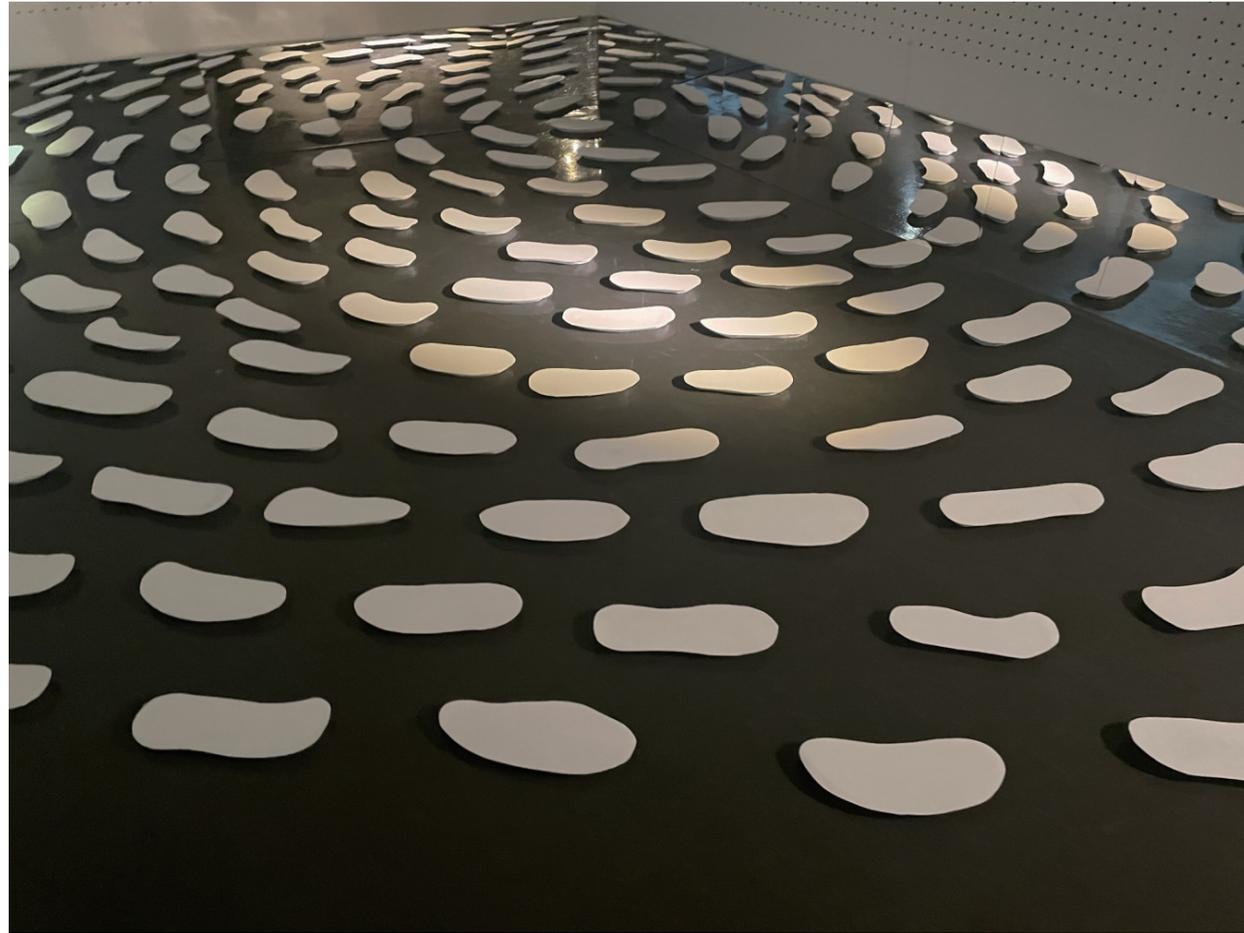
飲み終わったペットボトルは回収され、また再利用される。

再利用される前に、その素材のもつ美しい個性にスポットライトを当てて、アート作品として輝かせることができたらと考えながら作成しました。



ワイヤーとペットボトルで結構重くなり、吊るすことができるか、どうなることかと思いましたが何とか吊るすことができました。





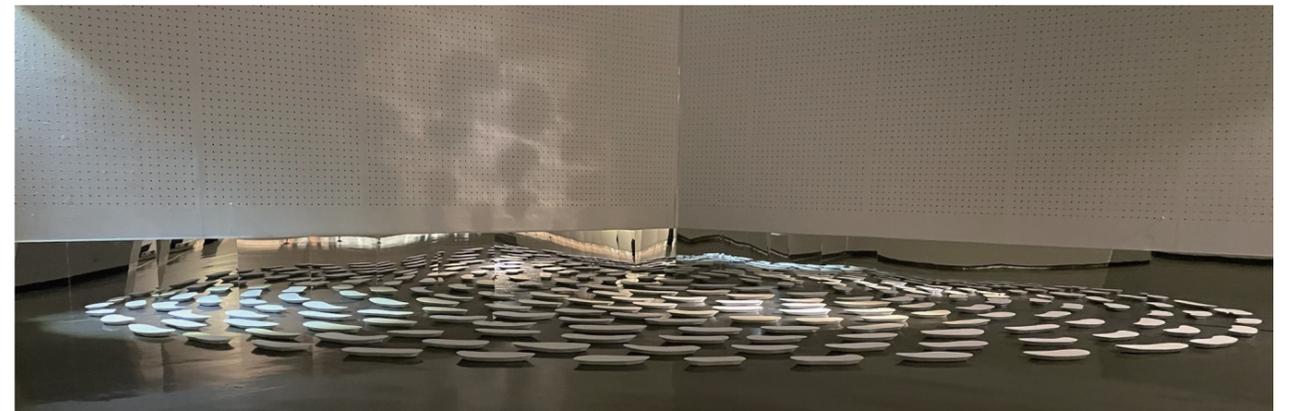
夢のかけらをまく場所を創造してみようと考えた。

雲集霧散 = うんしゅうむさん とは、
「たくさんものが集まったり散ったりすること。」
雲のように集まり、霧のように散るという意味。
夢のかけらを撒く雲を想像してみた。

雲は水の粒で出来ている、
物理的につかむことのできない存在は、
夢のかけらとも似ているように感じられる。
形にならないものを光で表現してみた。

雲集霧散

バラバラのかけらは
一つに組み合わせさり、
時の流れとともに大きく膨らみ、
時には萎む、
天に向かって放り投げると、
バラバラと雲に散らばった
バラバラとかけらは、
光に溶けて、
世界へ向かって広がった。



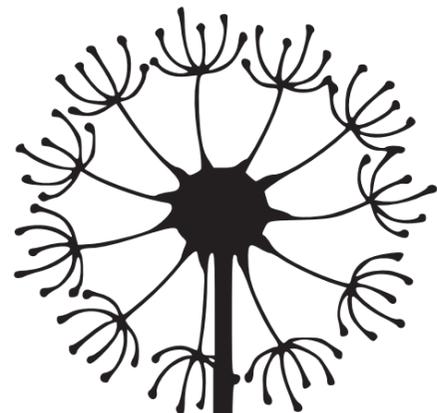
私の夢は おまかせで

今日もたくさんのユニコーンが
「夢のタネ」の世話をしています。
あとはおまかせして
私はワタシができることをするだけです！



March, 2023 SUZU

「夢」を「タネ」という
カタチに変えて世界に蒔く。
そのタネはどこかで育ち、いつかいろんな
カタチの夢の花を咲かせるでしょう。



蒔いた「夢」が花咲きますように。
その「夢のタネ(かけら)」が
いつか誰かの
夢の続きになりますように。



専属のお世話係と一緒に夢を叶えてくださいね！

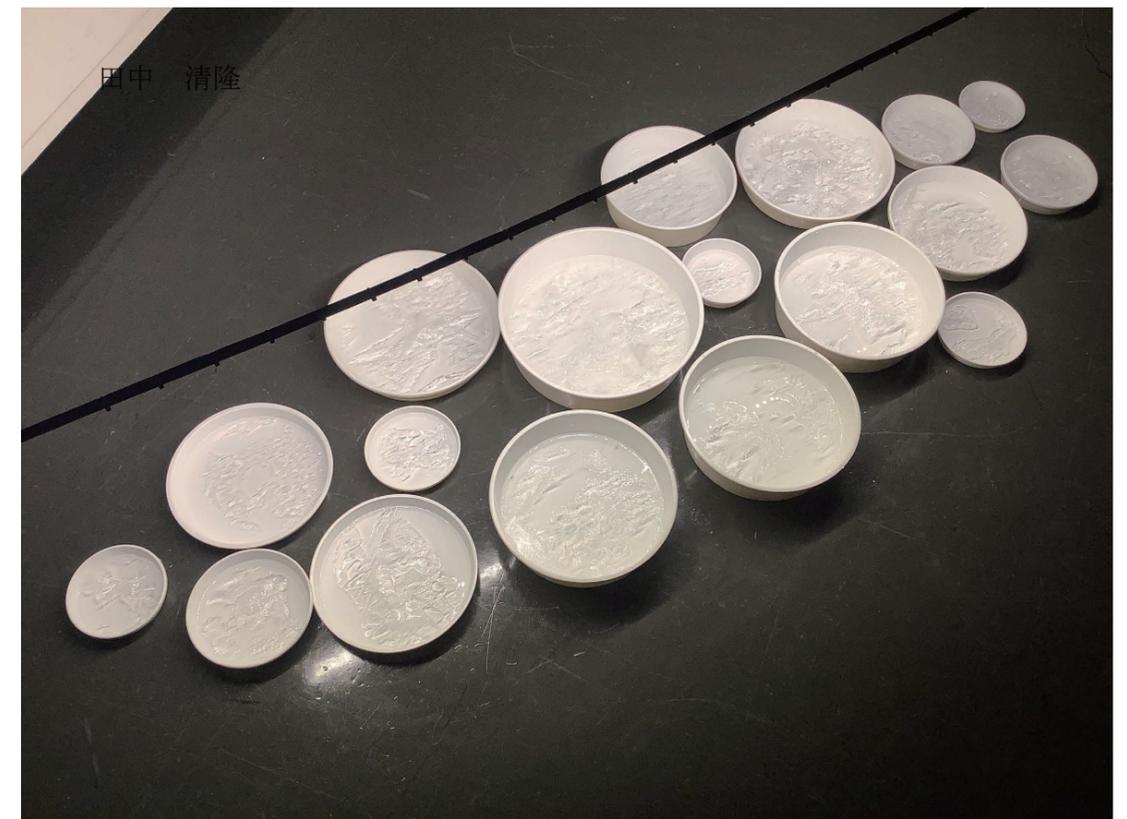


みなさま、今回も
ありがとうございました。
また、お会いできる日を
楽しみにしています！

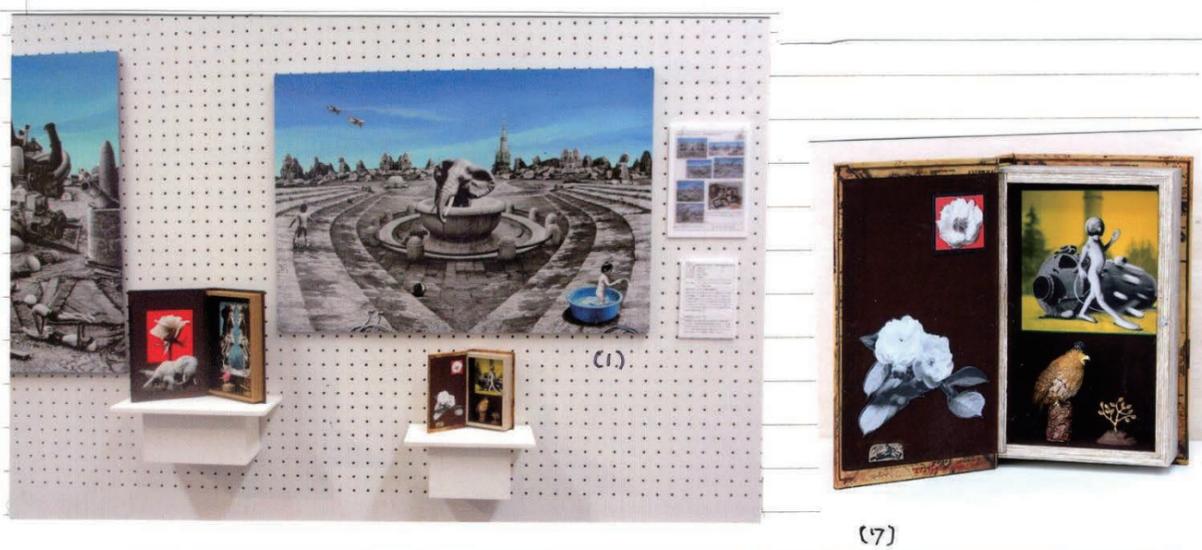




「くも」を天空から地上に下ろして置いてみる？
光と水とクリアシートを使って作り出す影模様のくも。
そのかけらをここに並べてみる。
そこに「光」加えて、そのかけらを見つける手助けする。
影と光を浴する装置。



数年に渡り「光」と「影」の関係の装置を製作を続けている。こんどは、
どのようになるのか？その実験を楽しむ事を大切に。

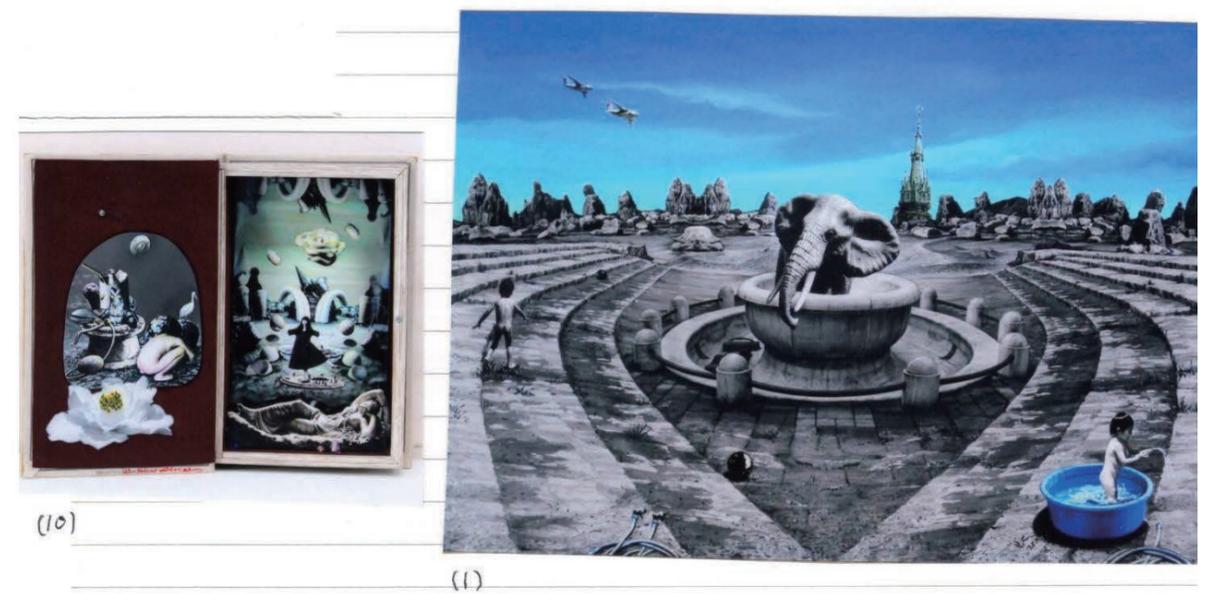


材質・技法／フォトコラージュ、ゼラチンシルバークラフト、アクリル、パネル+ジェッツ
 (ブックアートは加えて、本型木箱、アッサンブラージュ、フィギュア、メタル、手彩色)

- 原図：
- (1) 「コラージュー泉」 2022→23年 上記にカラーコピー併用／70 x 100.5cm
 - (2) 「コラージューワルツ」 2022→23年／90 x 127cm
 - (3) 「コラージュー噴水」 2022→23年／85 x 102.5cm
 - (4) 「コラージュー海の声」 2022→23年／75 x 109cm
 - (5) 「コラージュー荒地」 2016→23年／80 x 115cm
 - (6) 「コラージュー置場」 2022→23年／53 x 142cm

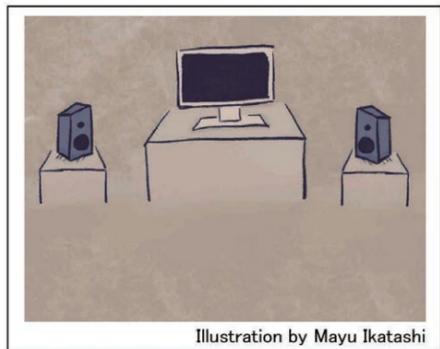
ブックアート

- (7) 「金の小枝」
2022年 21.1x13x5cm
- (8) 「小鳥の声」
2022年 30 x 21.5 x 4.7cm
- (9) 「マイドール」
2022年 26.1 x 17 x 4.8cm
- (10) 「アリアドネは夢を見る」
2022年 24 x 15.9 x 4.9cm
- (11) 「ヘルメスの伝言」
2022年 26.1 x 17 x 4.8cm



11 電子音響ピープルプロジェクト 電子音響ピープルプロジェクト 2022

ワークショップや大学の授業で作った電子音響音楽作品を素材として、集団で一つの楽曲として完成させた作品を上演しました。みんなの、そしてちょっと実験的な音楽たちです。



1. 新作 / 針ヶ谷小学校の皆さん+加藤典子+三友周太+柴山拓郎
2. Fu510N / 東京電機大学・同大学院修士課程・博士課程
3. 共存響影 / 東京電機大学・同大学院修士課程・博士課程
4. ばらばら集合体 / 東京音楽大学作曲科
5. MADSTCOLL / 東京電機大学大学院修士課程

1. 新作

2022年6月4日、三友周太さんが講師をつとめ、カホネレ(打楽器のカホンと弦楽器のウクレレのオリジナル合体楽器)を作るワークショップが、加藤典子さんの企画により実施されました。参加した皆さんは、完成させたカホネレを叩いたり弦をはじいたりして思い思いに演奏を楽しみました。その時の皆さんの音をレコーディングし、ちょっと不思議な音楽?に仕上げました。Artists:針ヶ谷小学校の皆さん+加藤典子+三友周太+柴山拓郎

2. Fu510N

昨今の音楽業界における、優劣をつけるような競争的な側面に対して、私たちは誰か1人の優れたセンス・能力のみではなく、集団の中の全員のセンスを引き出せるような作品作りを目指しています。こうした集団での作品制作において、一部の偏ったメンバー中心の制作となることを避けるために、定期的にチャットやアンケート形式の意見交換、少人数でのディスカッションを行ってきました。私たちが大事にしているのは、参加者全員が「自分もこの作品に携わり、貢献することができた」という達成感と一体感を味わえるようにすることです。このために、メンバーひとりひとりによる、作品の途中経過に対するフィードバックを数多く行うなど工夫を凝らしました。こうした作品制作を進めていくと、どうしても、よく貢献しているメンバーとあまり参加できていないメンバーに分かれてしまうことがあります。しかし、全員が直接的に作品制作に関わることは難しくても、それに対する感想や意見を伝え、間接的に影響を与えることは皆ができるだろうと私たちは考えました。制作を進めると意見交換を重ね、修正し、そうしてできたのが今回の作品となります。ただ研究室の全員の名前を載せているわけではなく、私たちは本当に全員で作ったのだという心からの実感とともに、この作品の制作に臨みました。Artists:東京電機大学理工学部/理工学研究科(修士) /先端科学技術研究科(博士):中窪涼介:学部3年。4歳からピアノをはじめとする様々な楽器を触り始め、絶対音感を習得。普段は趣味で作曲をし、配信をしている。2022年7月後半に自作の曲がドミニカ共和国にてApple Musicの"J-Popトップソング"の67位にチャートイン。普段は幅広いジャンルを問わず聴いている。増淵長慶:中学生の頃に楽器にふれ、高校生のときにDTMと出会い趣味で色々な曲をかバーした。普段は弾き語りを趣味としている。天野大介:学部3年。趣味でDJをしたり、曲を作ったりしている。曲づくりサークル部という学生団体に所属しており、DJ班を立ち上げたり作曲活動を行ったりしていた。ゲーム音楽やクラブミュージックが好きでよく聴いている。若林拓海:親からの影響や、合唱団の所属経験などから幅広い種類の音楽を耳にしてきた。現在は東京電機大学3年。菅谷凌:学部3年生。上野知也:学部4年生。研究班にて音楽作成における楽しさの検証を調査中。遠藤慎之輔:学部4年生。小さい頃からゲーム好きで、中でも音楽ゲームに熱中。その頃から音楽に興味を持つ。小室佳太郎:学部4年生。「D☆pop0」というダンスサークルに所属しており、好きな曲に振りを作り文化祭や外部イベントに参加しています。ゲーム音楽やアップテンポ調など踊りやすくノリやすい曲が好きでよく聴いている。関口野亜:野菜多めの餃子が好きです。原悠真:学部4年生。趣味でバイクに乗っています。サークルには所属してません。最近、バイクのオイル交換をしたいと思っているが卒論で忙しくてできていません。ドラクエのBGMが好きでよく聴いています。最近ではガンダムを観ています。安田翔:学部4年生。趣味で自分のカラオケ歌声をMixして遊んでいる。好きな音楽を探すためアップルミュージックのランキング欄を毎日確認している。大室絢音:住む家族や場所等環境がころころ変わる幼少時代を過ごしたが、その先々で音楽が絶える事なかった為様々なジャンルの音楽に触れてきた。バンドや吹奏楽部などに所属していたが、音楽性の違いにより本番直前で役を下ろされ、イベントに出る事は無かった。音楽に感化されよく泣いたり、盛り上がり夜中に外へ出て行ったりする。あまり音楽の趣味が合う人と出会わなかった為、人と音楽を共有する事に寂しさを感じている。松本恭祐:現在大学院1年生。趣味で風景の写真を撮影して編集したり、天気情報を見て分析したり、好きな曲のアレンジをしている。週末は撮影をするためにドライブに行くこともある。Unityでソフトウェアの開発を行なっている。地域や日時を指定することで太陽の軌道をシミュレートし、朝・昼・夕の日光の入射角や気象情報の取得による光の状況の可視化を可能にする。五十嵐万裕:大学院情報学専攻の1年生です。吉田優理奈:埼玉県出身。修士課程2年生。橋本亮吾:大学院2年。中学から大学にかけて合唱、アカペラに参加。早田淳平:博士課程に所属。現在は音楽と記憶の関係、音楽のリズム構造の関係などに着目し、音楽の言語ラベル化を試みている。新井聡真:現在博士後期過程在学。作品はICMC2017(上海)採択。2015年に「電子音響ピープルプロジェクト」の立ち上げに参画。(東京電機大学理工学部/理工学研究科(修士) /先端科学技術研究科(博士))

3. 共存響影

これはあの人の曲だ、このフレーズはあの人が、という体験をしたことはないだろうか。楽曲には作者の知識や体験からなる特徴が反映され、それが楽曲の個性となる。しかしその個性は時より、客観的視点により優劣をつけられてしまう面もある。そこで私たちは、メンバーそれぞれが楽曲を作り、1つの作品へ融合することで優劣の無い新しい1つの個性を生み出すことに挑戦した。複数の楽曲を1つの作品にまとめる上で注目したのが、楽曲の重なりから生まれる偶然性である。メンバーが作成した楽曲をいくつか同時に再生することで、音の重なりや調和、反発、沈黙といった要素が偶然生まれる。私たちはこの人工的かつ自然的な組み合わせにこそ作品の面白さを見出せると考えた。メンバー全員が作品をより面白いものへ昇華させるために、意見交換や感想の共有を考え、実行し、作品へ反映させていき作成したのがこの作品である。Artists:天光快晴:5歳からダンスを習いダンスを通して海外の様々なジャンルの音楽に触れてきた。東京電機大学で具体音楽に興味を持ち柴山拓郎氏の研究室に所属。普段はボーカロイドをはじめとしたネット音楽を好む。中村陽:学部3年生。5歳から高校卒業までサッカーをしてきた。小学生の頃からボーカロイド曲を好み、ボーカロイド関連のイベントにはよく参加している。趣味はボーカロイド曲の鑑賞と作曲、サッカー観戦、一人旅など。岩橋未有:学部3年生です。幼いころから音楽が好きで、ピアノや合唱を習っていました。大野勇人:学部3年生。趣味の音楽ゲームが楽しいと感じるのは何故か、その要因と活用法を研究したいと考え、研究室に所属。音楽を聴くのが趣味で特にTUBEの楽曲を好む。都留尚歩:学部3年生。習い事として10年以上ピアノに触れてきた。現在はバンドでキーボードを担当して楽しんでいる。音楽(特に邦ロック)をよく聴いている。吉田絵梨奈:埼玉県出身。学部4年生。フォークソング部に所属しドラムとキーボードを担当。蛭原崇弘:学部4年生。現在、電子音響音楽創作ワークショップの事前事後での電子音響音楽に対する印象の変化についての研究をしている。栗原歩武:学部4年生。インディーズバンドが好きでよく聴いている。2000年12月生まれ。6歳からピアノを習いピアノを通じてたくさんの音楽に触れてきた。東京電機大学で具体音楽に興味を持っている。Jpop音楽を好む。2019年東京電機大学入学。菅原聖秀:東京電機大学4年。幅広いジャンルの音楽を好む。聴くことはもちろんのこと、



と、そうでない音楽の研究をするつもりで入ったが、現在は全く違う研究を行っている。土井理史:東京電機大学、作曲・音楽文化研究室研究生。ゲーム音楽、効果音の作成・実装・プランニング・レベルデザイン担当。趣味はFPSとMMORPGと読書。好きな作家は西尾維新と乙一。柿崎瑞貴:スマートフォンアプリで人間の動きを利用した作曲ソフトを製作中です。鈴木隆潤:普段はヘヴィメタルやエレクトロニコアの楽曲をよく聴く。中学時代にヴィジュアル系アーティストの楽曲に触れ、多種多様なロック、メタルサウンドに惹かれる。現在ノイズ音をテーマとした研究を行っている。小林玄奇:小さい頃からCD以外に音楽関連の番組やCMに流れる曲を通して邦楽のみならず洋楽の幅広いジャンルを聴いてきた。小さい頃から聴いてきた曲によって形成してきた感性を基に、大学へ入学してから趣味で作曲をする形で自己表現を行うようになった。現在東京電機大学大学院修士2年。間下拓海:東京電機大学大学院修士2年。電子音響音楽の自動生成システムなるものを研究している。本多慎吾:1996年生まれ、埼玉県出身。現在東京電機大学大学院で音楽文化とアートデザインについて学び、先駆的な音楽表現の集団的な創作フィールドのデザインやその意義の研究をしている。高野大夢:山梨県出身。電子音響音楽を中心とした創作研究活動を行う。作品はInternational Computer Music Conference、Seoul International Computer Music Festival、Espacios Sonorosなどに入選し上演されている。日本電子音楽協会会員。音と音楽・創作工房116運営委員。(東京電機大学理工学部/理工学研究科(修士) /先端科学技術研究科(博士))

4. バラバラ集合体

音楽とは文字通り音を楽しむ芸術である。けれども私たちは現在その創作を楽しんでいる。しかしその音楽は常に他の創作者と競い合う際の中心的な位置づけにはなっていないだろうか? 私たちのグループは芸術音楽コースと映画放送およびミュージックメディアコースの二つの異なる専攻から成る。個人個人のバックグラウンドの違いはもちろん、コースによる学びの差異などによる意見・視点の多様性が豊富といえる。そのようなグループが共作するにあたって、個々が作ったサウンドの予定外の同時再生から得られた結果(偶然の発見)を作品に生かすことなどを大切にしたい。さらに、計画性と即興性、思考と直感、自然と人工物など対立するものをいかに作品に落とし込むかを試行錯誤した。ここにあつまった皆の一人一人の個性をそのまま生かして作るが故に生まれる「曖昧さ」の面白さを味わっていただきたいと思う。Artists:別府春和:学部2年。作曲科ミュージックメディアコース。川又有希子:作曲指揮専攻芸術音楽コース3年に在籍中。現在作曲を西村朗、野平一郎に師事。渡辺香乃:2001年生まれ。東京音楽大学付属高等学校を経て、現在作曲芸術コース3年在学中。第20回東京音楽大学学長賞受賞これまで作曲を久田典子、神山奈々、原田敬子、細川俊夫の各氏に師事。林原美由:東京音楽大学の作曲科の3年生です。普段は、ピアノや打ち込みで曲を作っています。商業音楽を作るコースにいて、今回のような音楽にあまり馴染みがなかったのですが、大変興味深く、自分の作曲にもいかせようだと思い参加しました。よろしくお願いします。高橋昇嗣:映画放送音楽コース3年。バンド「人生葬送派」キーボード。プログレッシブロック、邦ロック、J-popなどが専門。橋本朔:映画放送音楽コース3年。井上彰:神奈川県出身。現代音楽をはじめ多くのジャンルの音楽を研究、作曲している。現在東京音楽大学作曲指揮専攻に在学中。河合俊作:映画放送音楽コース3年。愛知県名古屋出身21歳。T.K.:ミュージックメディアコース2年。(東京音楽大学)

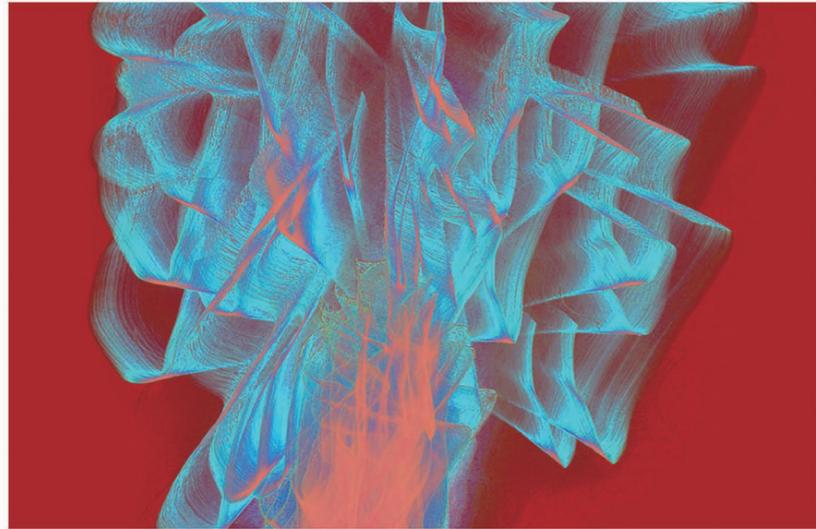
5. MADSTCOLL

この作品は東京電機大学大学院の授業を履修している学生と教員による協働制作作品である。10名の学生は、それぞれ別個に楽曲とコンセプトを作り、教員が彼らの作品をリミックスした。彼らが創ったそれぞれの音楽は、ノイズによる表現、耳鳴りをイメージした表現、記憶と現実との狭間でローファイ化していくような表現、コンピュータに関連した物音をベースにした表現、どれもが、今の日本で生きる20代の視点で日常から切り取られた音響の断片の集積と位置づけることができる。この作品は、COVID-19に縛られた2020年を過ごし、共鳴しあう感覚コレクティブである。この作品は東京電機大学大学院の授業を履修している学生と教員による協働制作によって作曲された。Artists:柴山拓郎:作曲家/サウンドアーティスト。現在東京電機大学教授および東京音楽大学非常勤講師を兼任。阿部沙也加:現在松浦教授の指導のもと、受精に関連するMR デバイスの研究を行っている。半田悠樹:現在小林晴美教授の指導のもと、ジェスチャーとコミュニケーションの関係について研究している。橋本亮吾:現在、東京電機大学大学院理工学研究科情報学専攻に在籍。小林勝也:現在、東京電機大学大学院理工学研究科情報学専攻に在籍。久保田知恵:現在電子工学専攻に在籍。荒船龍彦教授の指導のもと、乳幼児の呼吸計測と保育士の作業分析に関する研究を行っている。間下拓海:現在情報学専攻に在籍。柴山教授のもと、電子音響音楽の自動生成モデルの設計を行っている。永井都月:現在情報学専攻に在籍。野垣美歩:現在システムデザイン・テクノロジー研究科に在籍。斉藤教授の指導のもと、CV信号と映像の相互フィードバックの研究を行っている。鈴木隆潤:現在情報学専攻に在籍。坪谷岬:現在情報学専攻に在籍。山口大雅:神戸教授の指導の下、自動運転時における広告サービス提示システムの研究を行っている。吉田優理奈:現在情報学専攻に在籍。柴山教授の指導のもと、LEDテラプライトと外部センサー入力で制御するマルチスピーカーシステムを用いた空間音響インスタレーションに関する創造的表現研究を行っている。(東京電機大学理工学研究科&システムデザイン・テクノロジー研究科)

様々な楽器の演奏や、楽曲の理論分析も楽しんでいる。長谷川隼大:東京電機大学理工学部4年。デイズニーやゲームをきっかけに音楽に興味を持つ。真中大徳:東京電機大学学部4年。趣味は音楽鑑賞とeスポーツ観戦。大学1年後半から3年前半まで自身もeスポーツの選手として活動していた。好きな音楽のジャンルはゲーム音楽、アニソ、JPOP、洋楽、EDM。1999年11月生まれ。普段から音楽をよく聞き、音楽文化、音楽制作に興味を持った。eスポーツ選手としての経験を活かし、現在はeスポーツ×音楽の研究を行っている。長谷川権:東京電機大学4年生。本人は音楽が好きだが、何故かそこまで好きでは無いJazzの部活で活動していた。柴山研究室には世俗に受ける音

隅田川の花火大会は、江戸時代に流行った疫病の死者を弔うために始まったと聞いたことがある。また、長岡花火は長岡空襲からの復興を願い始まったようだ。儂くも美しい花火。花火大会が始まるきっかけとなることは、人々の夢や願いが込められている。私はそんな花火を撮影することをライフワークの一つにしている。でも撮影方法は、ちょっと変わっているブレないようにシャッターを切るのが大道だが、私はカメラを踊らせて撮るのだ、普通そんなふうに撮影しない。その瞬間をカメラで切り出し、さまざまな加工を施すと、私にとっての「ゆめのかげら」が誕生する。同じかげらは一つとしてない。私だけの宝物だ。花火から受けとるインスピレーション。それを表現する時に、切り刻んだ「かげら」たちは、私の手によって、実験的に、新しい魂を吹き込まれる。

今日は、私のにとっておきの「夢のかげら」たちをこの会場、いや、この空間に撒いてみようと思う。まるで、くもにまいてるように・・・。



天狐の舞



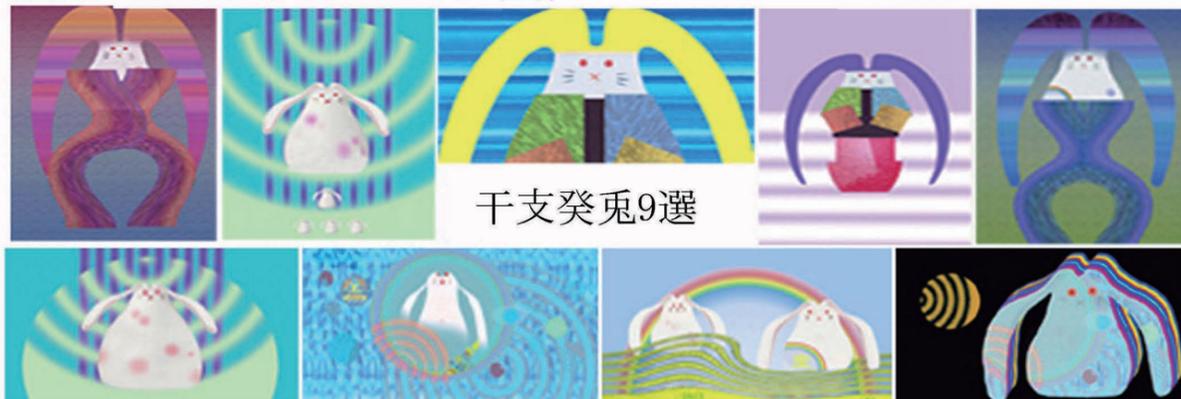
太古のひびき



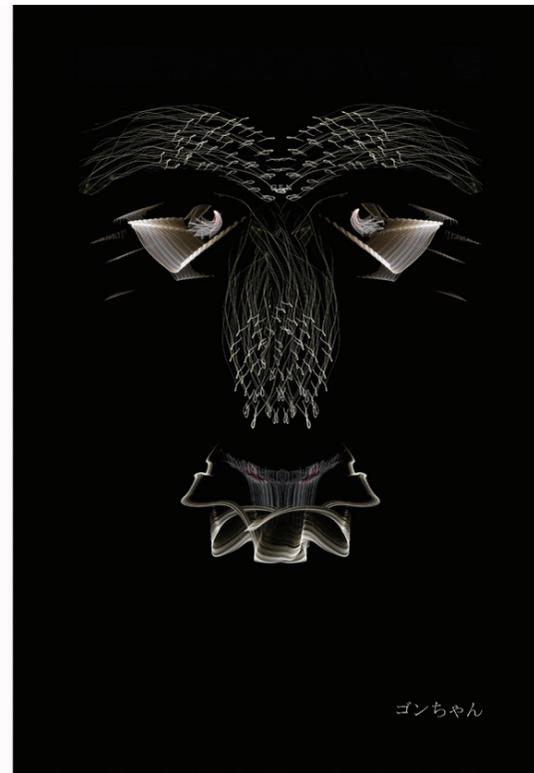
火の鳥



エンブレム



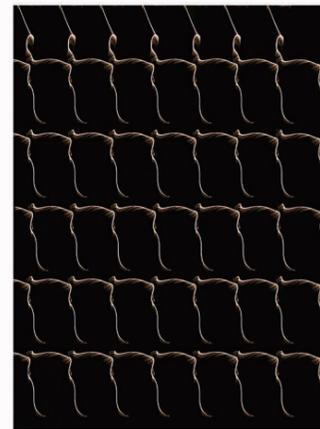
干支癸兔9選



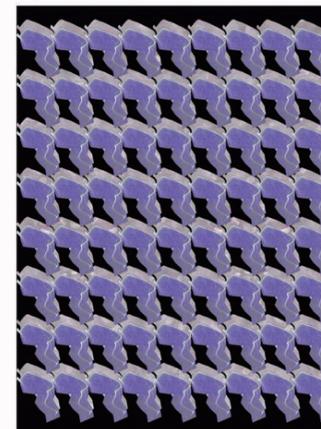
ゴンちゃん

2022年旧盆3年ぶりの花火大会コロナ規制もこころなしか和らぎ感？私が何時も撮影している土手へ行くと思つた以上に大勢の観客だ!! 遠慮しがち声をかけると気持ちよく場所を横に1m程開けてくれた。まもなく打ち上げが始まり久振りに観る花火に観客が興奮して拍手や歓声がわき、私がカメラを踊らせて撮っていると、席を譲ってくれたカップルが興味ぶかそうにこちらを見ていた。再生画像をモニターで見せるとすごいすごいの連発だった。GEN

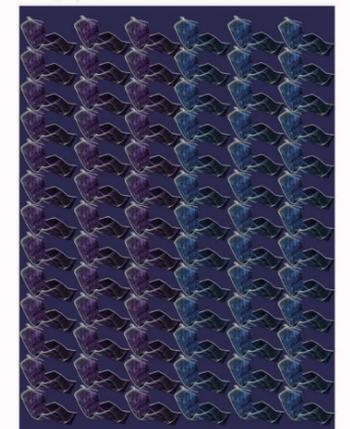
目



辛い日々



平安な日々



ゴンちゃんの仲間10選



SMF Press 2010 vol.1 →2023 vol.52 Archives

SMF Press は年4回発行の情報誌として創刊しました。SMFのアートプロジェクトやワークショップ、そのほか耳寄りな情報をタイムリーにお届けしています。当初はいつまで続くのか、と予想のつかない状況でしたが、なんと昨年には記念の創刊50号を発行。まだまだ進化する？SMF Press。さてこの先、何号まで続くのだろうか！





まちがえやすい わ・ね



似ていて
ちょっとした違い
「猫」と「描」

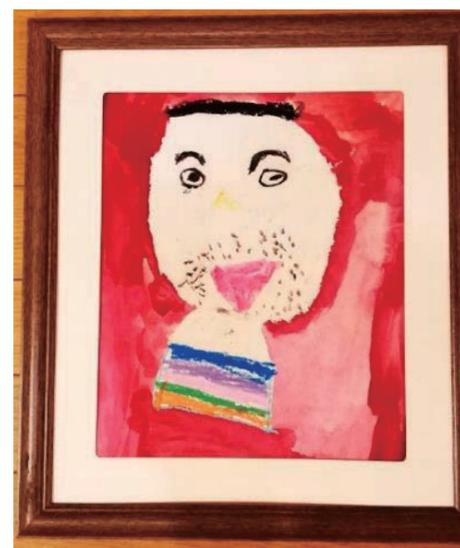
始まりは2016年から
12作品
実物大は5点
シリーズ最終模型は
2023年「こ・い」

間違えは
気づいて
焦って
滅入って
笑って
直せば「い・い」

plane ⇄ solid

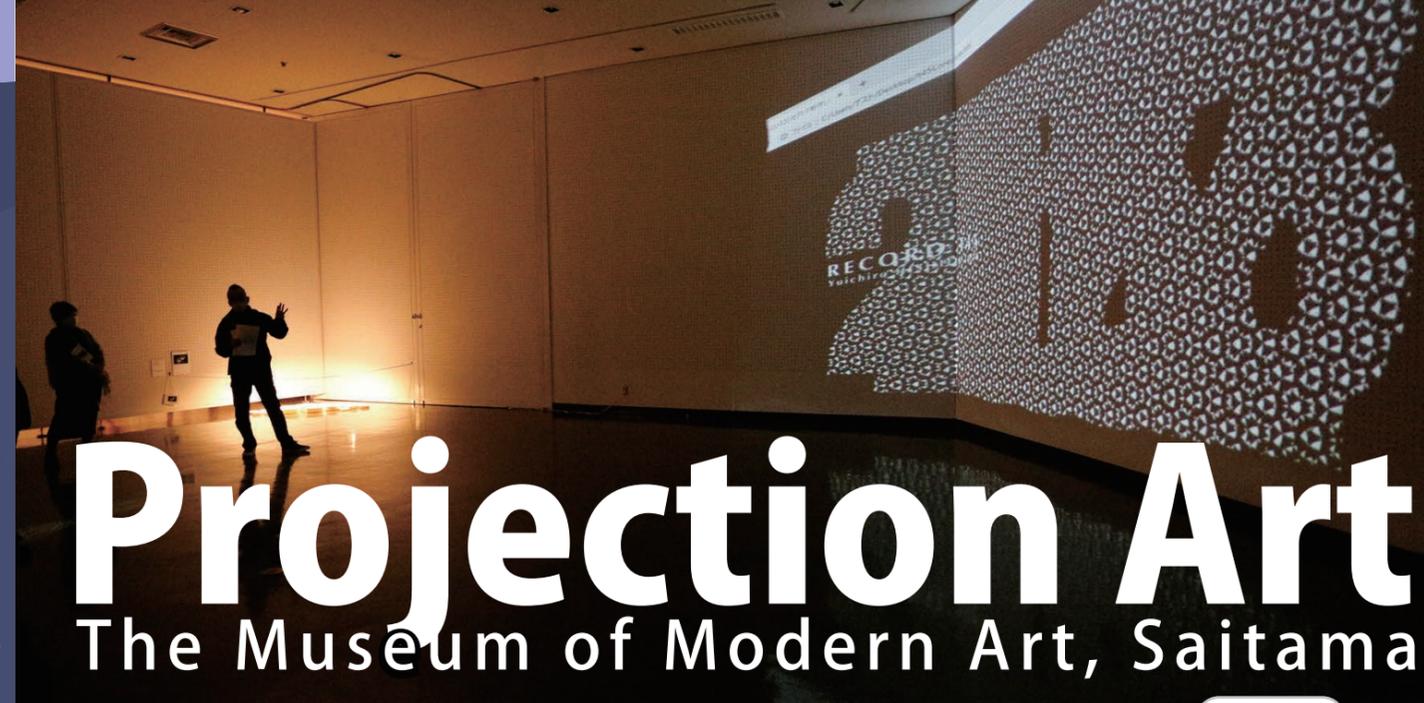


piece ⇄ peace



作品名	Layered/ 積み、重ね	Title	Layered/ Add, Pile up
作者名	はた みき	Created by	Miki Hata
制作年	2023 年	Production year	2023
制作日数	1 日	Production days	One days
技法・材質	油絵、プラスチック、スポンジ	Techniques Materials	Oil painting, plastic, sponge

<p>【「夢のかけらを くもにまく」と 出展作品の関わり】</p> <p>刻一刻と、雲は形を変えていく。5 分後には、全く違う形になっている。 空に浮かぶ雲は、常に形を変えながら動き、一定の場所に留まることもない。 時間の流れも同じこと。あっという間に流れ続けて、刻み続ける。 いつの間にか過ぎ去っていった一緒に過ごした時間と、離れてからの時間。 記憶のかけらを散らすでもなく。思い出を埋めるでもなく。ただ、そこに置く。 父親が残した“くも”の絵を一番下に寝かして…。時間のレイアードを作る。積み重なっていく透明な時間。 ピントの合わないレンズのような、まだら模様の記憶たち。</p>	<p>【"Scatter a fragment of a dream to cloud."and the relationship between the exhibited works.】</p> <p>From moment to moment, the clouds change shape. After five minutes, it is completely different. Clouds in the sky constantly move and change their shapes and do not stay in one place. Also time flows the same way. Time keeps running so fast. Time keeps ticking. The time we spent together before we knew it, and time since we left it. Fragment of memory does not scatter. It is not about filling your memories. Just put it there. Place the picture of a "cloud" left by my father at the bottom. Create a "time of Layered". Transparent time accumulates. Patchy memories, like lenses that do not focus.</p>
<p>【作品制作にまつわるエピソードなど】</p> <p>父と別れてから 26 年が過ぎた。透明な時間が音もなく積み重なっていった。父への思いも毎日、思い出すわけではない。ときどき、ふとした瞬間に顔を出す。 生前の父の様子を伯母から聞いた。従弟妹たちとした。思い出を補完してくれる人達。父の話をしたくなったら、また会いに行こう。 思いが重なる記憶、その温度を共有できる人達も徐々にいなくなってしまう。 これからも透明な記憶は、積み重なっていく。重なり続けていつの間にか分厚いフィルターがかかってしまう。 父の存在がセピア色になっていくほど今を意識してしまう。 裏テーマは、メメント・モリです。 今日から全部。今から全部。 【夢＝「死ぬまでにやりたいこと」】をやっている。 父の作品とコラボレーションもその 1 つ。</p>	<p>【Episodes related to the production of the exhibited works.】</p> <p>It is been 26 years since I lost my father. Transparent time accumulated silently piled up. I do not recall my feelings for my father every day. Sometimes, casual moment, memories of my father come to my mind. I heard from my aunt how my father was character before death. I told my father's story to my cousins. People who complement my memory. If I want to talk about my father, let's go see them again. Overlapping memories. People who can share the warmth of memories with me will gradually disappear. As always, transparent memories accumulate piled up. They keep piling up, and before you know it, a thick filter gets applied. The more my father's presence turns sepia, the more I become aware of the present. The background theme is Memento Mori. Everything from today. Everything from now. 【Dream = "what I want to do before I die".】 Let's make my dreams come true. This collaboration with my father's work is one of my dreams.</p>



Projection Art

The Museum of Modern Art, Saitama

菱田 祐一郎 Yuichiro HISHIDA

RECORD T45



このプロジェクターを使ったプロジェクションアートは、本来 WEB 上にあるデジタルアートで、悠久の時を可視化したシリーズ作品のひとつです。「雲」に似たこの作品は美しい「モアレ模様」が変化して「眩しく輝いている」ようにも見えます。



パフォーマンスアート 2023/03/19

デジタルアートを自由に持ち歩くパフォーマンスアート

プロジェクターを自由に持ち歩くために太陽光を充電した蓄電池を背負い、自分自身の映像作品を、埼玉県立近代美術館展示会場に投影したパフォーマンス。

会場の壁、床、天井、人体に投影されたプロジェクションアート作品は、観覧者の記憶に残るパフォーマンスアートになりました。

YouTube

公式サイト
<https://waerbt.com/>

RECORD_T47 [2021制作]	RECORD_T43 [2020制作]	RECORD_T42 [2020制作]
RECORD_T41 [2020制作]	RECORD_T40 [2019制作]	RECORD_R15 [2017制作]
RECORD_R02_Tour [2017制作]		

二口 孝絵 「保護うさぎの似顔絵」2023



2021年より、埼玉県の保護うさぎ施設「悠兎」ゆうと様の依頼にて、保護うさぎの里親になって下さった方へ、お礼の贈り物として、うさぎの似顔絵を描いています。保護うさぎの似顔絵は、アートソフトを使って、デジタルの油彩、クレヨン、水彩、鉛筆を使って、パソコン上で、描いています。



17 夢のかけらを くもにまく TAKARABUNE 2023

作品名	保護うさぎの似顔絵
作者名	二口 孝絵
制作年	2022年
制作日数	1日
技法・材質	デジタル油彩&クレヨン画を印刷しました。
「夢のかけらを くもにまく」と出展作品の関わり	
<p>どの様な命でも大切にされる社会であって欲しいという事を、絵を通して伝えたいと思いました。現実化して欲しい、一つのゆめだから、ゆめのかけらをくもにまいて、雲が風で流れる様に、広げていきたいと思っています。</p>	
作品制作にまつわるエピソードなど	
<p>保護うさぎも含めて、動物の寿命は、それほど長くは無いので、いつかお月様へ帰ったとしても、大切に育てていた家族に会いたくなった時に、思い出せる様な絵を描きたいと思いました。宜しければ、画集もご覧ください。</p>	

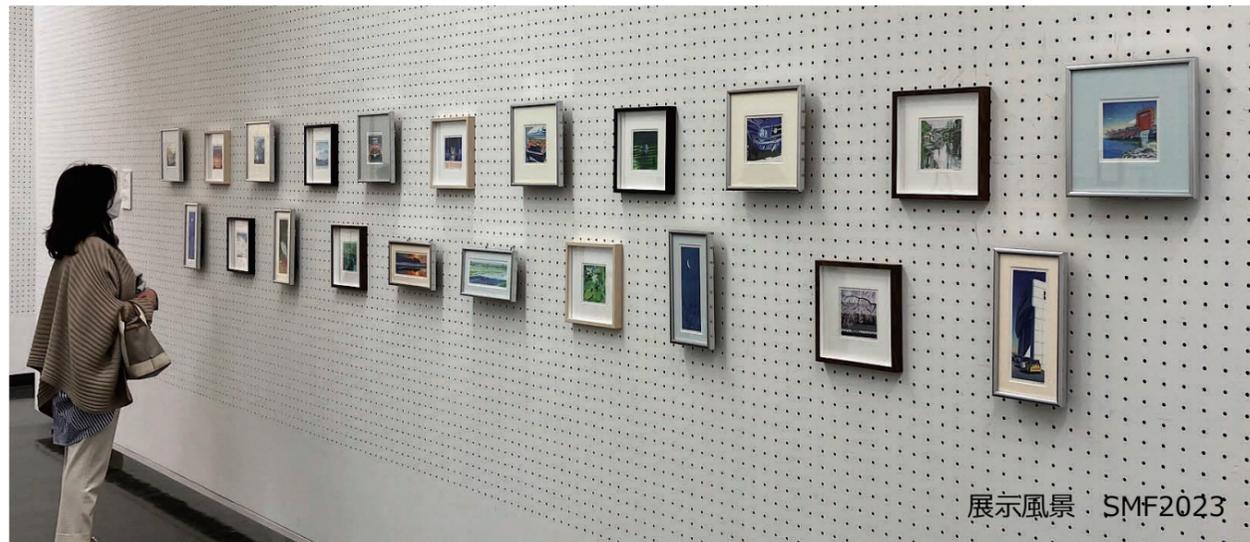
M.HONDA 水彩画



Mの水彩画
M.HONDA
ブログ

ウォーキングでは必ずカメラを首に下げて家を出ます。365日、歩いていると「今日は最高に気持ち良い！」と思える日って意外と少ないのに気付きます。当然天候、体調、気分と、それら全てが良い状態である事が重要です。そんな条件が揃えば、毎朝歩いている道でも、絵に描きたくなる様な素材が多く見つかったりします。一度通り過ぎて、戻って写真を撮る事もしばしば。歩きながら目に入った対象を頭の中で水彩画に変換して、これは絵になるかも？と思った時がそんな時です。

今回の宝船展では、「2度と無い、夢の瞬間を描き留める」という副題をつけました。水彩画の題材に出会える事って、上記の様な偶然が重なって起こる事で、正に夢の瞬間、いつもそれを大切にしています。この紙面にて、展示した絵やこれまでの絵を紹介させて頂きます。ブログ(QRコードより)で絵に付けているコメントもお読み頂ければ幸いです。



展示風景 SMF2023

近所で見かけた対象物



冬の朝、月と野鳩



消えゆく月



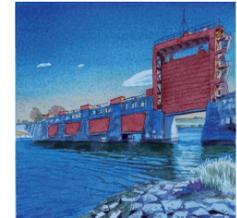
若アオサギ

善福寺公園



善福寺池のカモ

荒川サイクリングロード



旧岩淵水門



朝霞水門

茨城・勝田



ギボウシ

あきる野市



立春

中禅寺湖



秋雲

茨城・石岡



田園の朝焼け

御殿場



Rolling Moon

京都



雨の二年坂

海老名



相模川

近所で見かけた対象物



玉蔵院の猫



雨上がりのミニ



朝焼けの街



名も無き池

奥日光



紅葉

横浜赤レンガ倉庫



エスハチ



MGミジェット



フォード・マスタング

2022年5月「笠間の家」での展示作品



春を待つヒヨドリ



朝顔



木漏れ日



アメリカデイゴ



イチヨウの森

ゆらゆらとゆれて

みやうか 



今回のテーマ「夢のかけらをくもにまく」から苦しい経験や辛かった出来事から希望を見出したいという思いから、涙型のデザインを制作しました。この中には不安定ながらも乗ると楽しい小さなブランコを入れてあります。涙の色や形はその時の感情の動きから連想しました。私の願いは、どんな状況でも楽しく受け止めることができるようになることです。いずれは人が乗れる程の大きさの涙型とブランコを制作し、ゆられながら楽しみたいです。

【素材】

和紙

京花紙

透明水彩



雲の上へのせることで大切な物を守り、見失わないようにするイメージを表現しました。



上尾でカフェの空き空間と空き時間を活用して上尾アートセンターという団体活動を昨年始めました。その活動の際に作成した配布物などをアーカイブとして集めて資料として『THE archive 2022』 in the Ageo Art Centerと題して昨年1年間の活動の記録を振り返る記録展示となりました。

その中でも代表的な活動を中心に説明いたします。

『喫茶芸術領域構築』展

は毎月店内に、月替わりアートメニューと称して、主に平面作品の展示を行います。いろいろな作家さんの作品を月替わりで楽しんでいただくプログラムを実施いたしました。当日の会場には制作したDMや作家さんの作品小冊子などの展示配布を行いました。

『上尾トリエンナーレ』2022

『喫茶芸術領域構築』展の作家さんたち全ての作品が最後にまとめて鑑賞できる機会を設けました。複数の作家さんの作品を芸術祭のように楽しんでいただけたらと思い、企画しました。当日の会場には制作したチラシやパンフレット、屋外展示作品など展示や配布を行いました。

『人力ジュークボックス』美術館出張編

「ブルーカメレオン」nono(Vo.)tessy(Gt.)というジャズユニットの方と営業中の店内で生BGMでお客様に店内を過ごしてもらおうという企画を行っています。演奏中はMCを行わずジュークボックスのようにセットリストから曲をリクエストしていただくという形になっています。本展示では実演を展示するという試みでした。TAKARABUNE展当日は、ボードに曲のリストに番号をタイトルに貼ってもらうスタイルでリクエストを受け付けました。

その他の活動の紹介

コンテンポラリーダンスと音楽の即興パフォーマンスを行ったり、ウクライナで医療支援を行っている方からお話を伺うトークイベントなどを行いました。

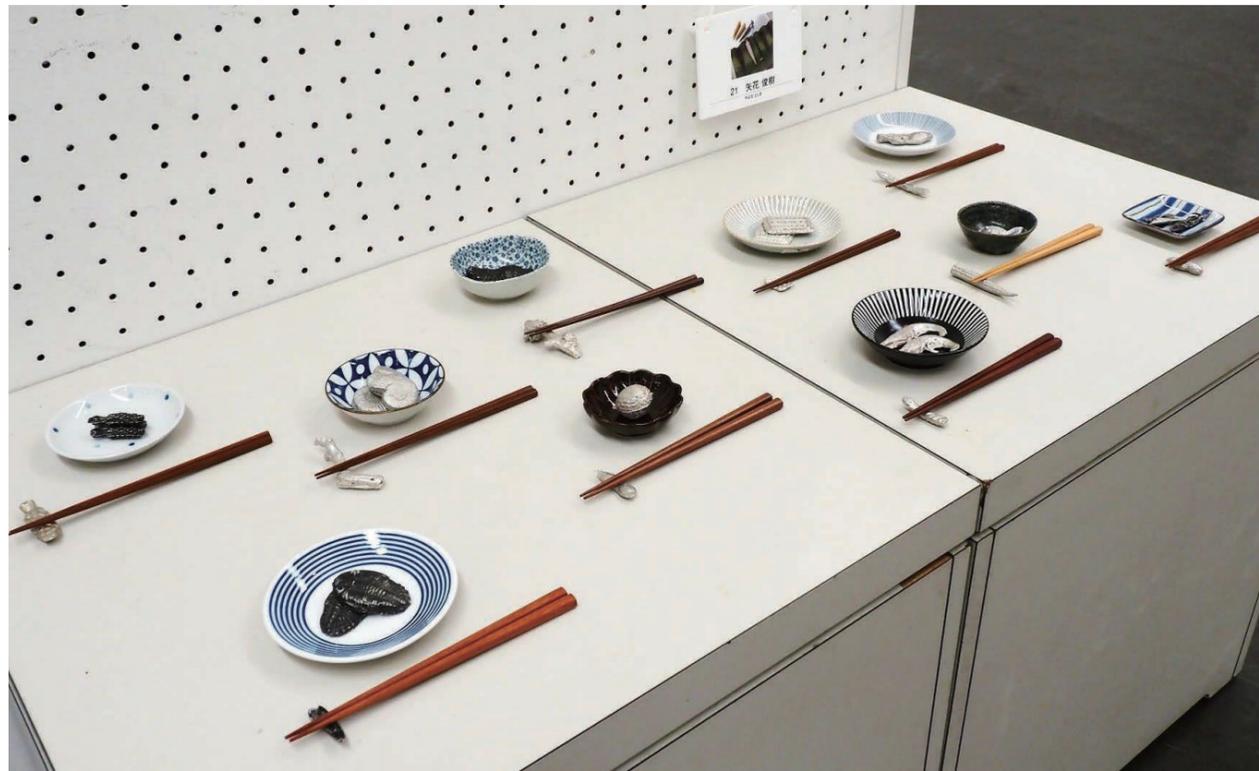
打楽器の演奏家のツアー会場の協力などのコラボを実施しました。

2022年は展覧会の会期中、毎週金曜日閉店後の店舗を開放してギャラリーのようにじっくりと作品を鑑賞する時間を設けて、『ナイトギャラリー』を実施しました。色々な方との出会いの場にもなりました。

カフェを通じてアートを発信、そして集まる。

森久憲生（上尾アートセンター）





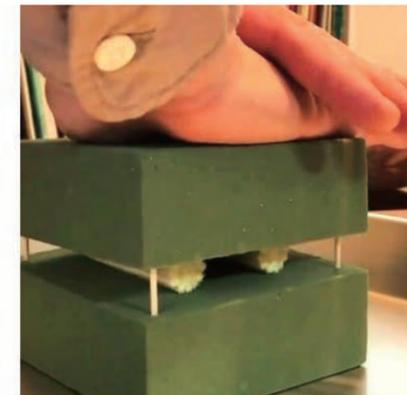
夢のかけらを くもにまく TAKARABUNE 2023

ワークショップの提案

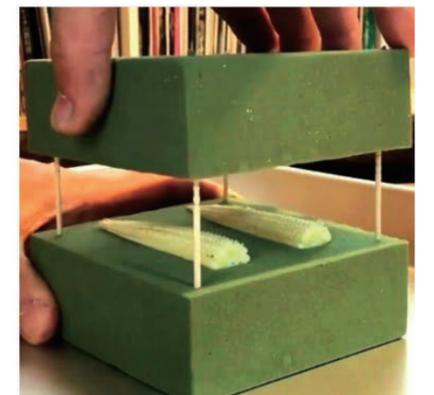
重村三雄《風景の外側》を鑑賞してから、北浦和公園でお気に入りの枝を探します。
 簡単！キッチン鑄造で、お気に入りの枝を箸置きに変えるワークショップを行います。
 ※工程写真は、展示作品 HASHIOKI 《あんなもの こんなもの》の制作工程です。



鑑賞作品《風景の外側》



①鑄型制作（原型をフローラルフォームで挟み込む）



②原型を取り出す



③湯道、湯口をつくる



④鑄型をクランプで固定



⑤錫を鑄込む



⑥鑄型から取り出し、仕上げる



⑦完成（カトラリーレスト）





社会芸術/ユニット・ウルスの活動と存在、その扱いについて運営上議論にもなる。参加者の多くが個人であるのも承知の上で、我々はグループを結集した。
その理由は、100年後に「野良の藝術」が芸術の主軸へとシフトしていくと見通せたからである。グローバル経済が推し進められる現代社会のアンチテーゼとして、分断された現代社会との決別を意図。野良の藝術思考の回復を切望し、活動を続けている。

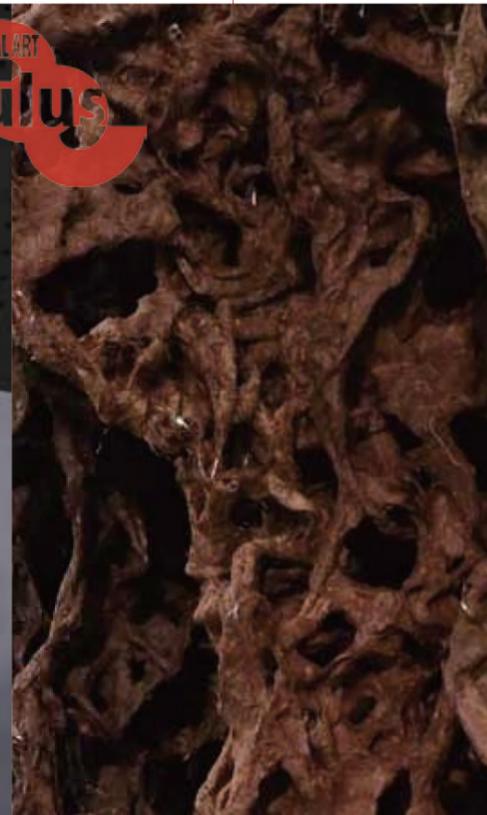
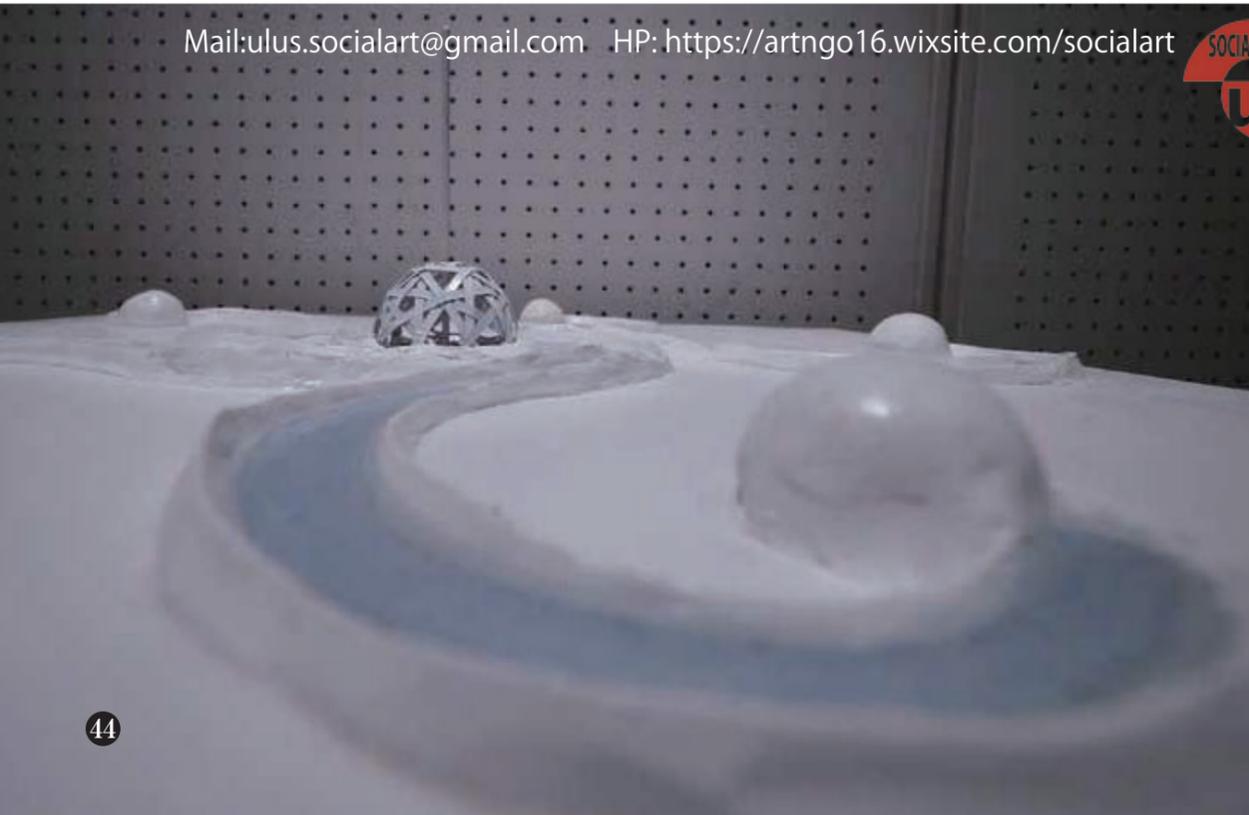
斜面林、耕作地におけるインスタレーション in 見沼・さぎ山



「報告：『野良の藝術 2022 さぎ山の現場Ⅲ 熱・分解と融合』より」 社会芸術/ユニット・ウルス

TAKARABUNE 2023 参加者：石崎幸治、大原由、蒼浩人、立松節子、長田淳一、長谷川千賀子、柳井嗣雄、吉川信雄、吉田富久一

Mail:ulus.socialart@gmail.com HP: <https://artngo16.wixsite.com/socialart>



TAKARABUNE 2023「夢のかけらを くもをにまく」「エントリーシート」について

今回が7回目となる「TAKARABUNE (宝船展)」は不思議な展示会です。長い活動歴があり既に各地の美術館にコレクションされている美術家と人前で作品を展示するのは初めてという方が隣り合って展示したり、美術ではなく現代音楽やコンテンポラリーダンスの参加があったり、子どもの自由な創造活動をサポートするワークショップがあったり、喫茶店主の方が地域のアートセンターとしての活動を紹介したりと、実に多種多様なそれぞれの「夢」が集う珍しい場となってきました。

「TAKARABUNE (宝船展)」は、審査のないアンデパンダン方式で、規定に従い「エントリーシート」と「出展者アンケート」を提出するだけで、どなたでも参加できます。この展示会は、メールアドレスを登録するだけで入居して作品を公開できるインターネット上の「SMFアート長屋」(<http://artnagaya.jp>)と連動して生まれたもので、個々人の自由な表現を尊重しながら、ゆるやかにつながることを目指すSMFの

姿勢を反映するものです。

「エントリーシート」とは、実現したい「作品」や「プロジェクト」のアイデアなど多様なアートの「夢」を記載するシートです。オリジナリティに富んだ「夢」が会場で一堂に会し、「アーティストトーク」や「ラウンドテーブル」を通して共有され、来場者や出展者が相互に刺激を与え合うなかで、想像を超えるケミストリー (化学変化) が起こり、多くの興味深い企画やプロジェクトが実現されてきました。

「エントリーシート」は各出展者の「夢のかけら」であるとともに、この展示会の基軸となるもので、アートの「夢」を希求する心は「TAKARABUNE」という展示会名にも受け継がれています。あなたもとっておきの「夢」を「TAKARABUNE」に乗せて一緒に楽しみましょう。

夢のかけらを くもをにまく TAKARABUNE 2023



自分の考えや感じたことをどんな手段でも表現して見える形にするのは難しいです。一生懸命作ったものに他に類がない独自の世界がある、且つ感動を覚えてくれたらこの上なく嬉しいです。

題名：独自の世界をつくる 氏名：石崎幸治

夢のかけらを くもをにまく TAKARABUNE 2023




さいたまの古社には、神話の英雄たちが祭られている。しかし私たちは、その存在をほとんど忘れてしまっている。このプロジェクトは、破壊と創造を司るその英雄を芸術祭にお招きすべく、そのお姿の再現に取り組むものである。作者としては本作が、古(いにしえ)の神々と、芸術祭にお招きいただいたガタとを繋ぐ媒体となることを望んでいる。

題名：「土地の記憶」プロジェクト 氏名：石上 雄行

夢のかけらを くもをにまく TAKARABUNE 2023

加藤こどもの造形教室 ～アルツミトラ～




アルツミトラの箱は、グライダー発想のきっかけになったとされるような箱を持っている。巨大な箱の中にある数個の箱はそれぞれの箱の持ち主が全て異なる。燃るべき時にその箱は風を頼らず高空から次々と墜落する。箱が異なるがゆえにそれぞれが違う場所に着地し生きていくという。

題名：加藤こどもの造形教室 ～アルツミトラ～ 氏名：加藤こどもの造形教室

夢のかけらを くもをにまく TAKARABUNE 2023




題名：人形と胸像と仲間 / ミアグルオキイ 氏名：かわにしすみえ

夢のかけらを くもをにまく TAKARABUNE 2023




ガビ→□→歪み→ツタ→風見鶏と雀→機械→葦→痛ましい手→煙→向かい風で深呼吸→

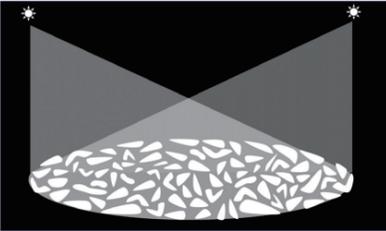
題名：drab 氏名：カワムラアツリ・松元日奈子

夢のかけらを くもをにまく TAKARABUNE 2023



夢のかけらをまく場所を創造してみようと考えた。雲集霧散＝うんしゅうむさん とは、「たくさんものが集まったり散ったりすること。」雲のように集まり、霧のように散るという意味。夢のかけらをまく雲を想像してみた。

「雲集霧散」
 パラパラのかけらは一つに組み合わさり、時に消えたりもどくと大きく膨らみ、天に届かずに降り投げると、パラパラと雲に散らばったパラパラとかけらは、光に輝いて、世界へ向かって広がった。



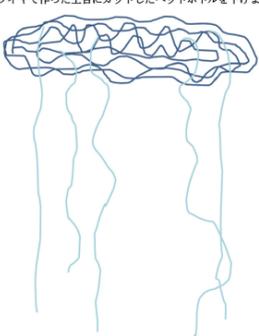
題名：雲集霧散＝うんしゅうむさん 氏名：SYUTA (三友剛大)

夢のかけらを くもをにまく TAKARABUNE 2023



飲み干した後のペットボトルは再利用されますが、でもその前に、美しい造形に作り上げ、鑑賞後に再利用したいと思えます。さて、どんな形になるでしょうか。

ワイヤで作った土台にカットしたペットボトルを下げます



題名：輝きを求めて 氏名：シミズフーラルデザインスクール

夢のかけらを くもをにまく TAKARABUNE 2023



私はタネをまく 夢のカケラというタネをまく

カケラは風にのり いつかどこかで 思いもよらぬカタチになっているでしょう

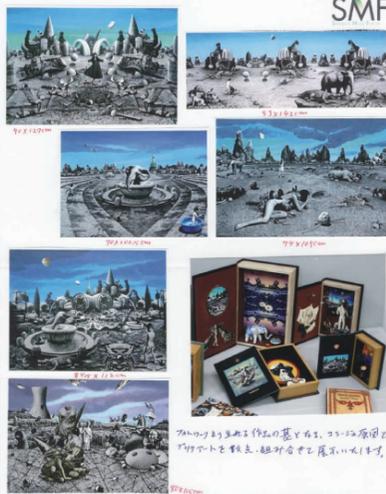
むずかしいことは おせっかいなユニコーンたちに おまかせして

私はワタシが できることをするだけです



題名：私の夢はおまかせで 氏名：SUZU

夢のかけらを くもをにまく TAKARABUNE 2023

題名：原園とアソクアート 氏名：出店 久夫

夢のかけらを くもをにまく TAKARABUNE 2023




「くも」を天空から地上に下ろして置いてみる？ そこに「光」加えて、そのかけらを見つける手助けする。影と光を浴する装置。

題名：影光浴「そのかけら」 氏名：田中 清隆

夢のかけらを くもにまぐ TAKARABUNE 2023

ワークショップや大学の授業で作った電子音楽作品を素材として、集団で一つの楽曲として完成させた作品を上演します。みんなの、そしてちょっと実験的な音楽(?)をお楽しみください。

- 新作 / 針谷小学校の皆さん + 加藤典子+三友周太+柴山拓郎
- Fu510N / 中塚涼介・増淵長慶・天野大介・若林拓海・菅谷凌・上野知也・遠藤慎之輔・小室佳太郎・関口野重・原悠真・安田翔・大室尚音・松本恭祐・五十嵐万裕・吉田優理奈・橋本亮吾・松本実樹・新井聡真・早田淳平 (東京電機大学)
- 共存影響 / 天光快晴・中村陽・岩橋未希・大野潤人・都留尚歩・吉田絵梨奈・綿原崇弘・栗原歩武・菅原聖秀・長谷川隼大・真中大徳・長谷川優・土井理史・柿崎理貴・鈴木隆潤・小林玄斉・関下拓海・本多慎吾・高野大夢 (東京電機大学)
- バラバラ集合体 / 別府善和・川又有希子・渡辺香乃・林原英由子・高橋昇嗣・橋本朝・井上 彰・河合俊作・小倉海拓海 (東京音楽大学)
- MADSTCOLL / 柴山 拓郎・阿部沙也加・半田悠樹・橋本亮吾・小林勝也・久保田知恵・関下拓海・永井都月・野垣美歩・鈴木隆潤・坪谷紳・山口大雅・吉田優理奈 (東京電機大学)

題名: 電子音楽ビープルプロジェクト2022 氏名: 電子音楽ビープルプロジェクト

夢のかけらを くもにまぐ TAKARABUNE 2023

岡田川の花火大会は、江戸時代に流行った疫病の死者を悼むために始まった際がある。

また、長岡花火は、長岡空襲からの復興を願ったようだが、夢も美しい花火。

花火大会が始まるきっかけとなることは、人々の夢や願いが込められている。私は、そんな花火を撮影することをライフワークの一つにしている。

でも、撮影方法は、ちょっと変わっているブレがないようにシャッターを切るが大変だが、私のスイングショット技法は、私でいいだろう。普通そんなふうには撮影しない。

その瞬間をカメラで切り出し、さまざまな加工を施すと、私にとっての「ゆめのかげら」が誕生する

同じかけらは一つとない、私だけの宝物だ。

花火から受けた、インスピレーション。

それを表現する時に、切り刻んだ「かけら」がこれでもかと雪おぼればかりに、私のパソコンに溜まっていく。普通なら捨てられてしまう「かけら」たちは、私の手によって、実験的に、新しい魂を吹き込まれる。

今日は、私のおき「夢のかけら」たちをこの会場、いや、この空間に置いてみようと思う。

まるで、くもにまいでいるように・・・

題名: 写真中村元の世界「ゴンちゃん」と仲間たち」干支突鬼 氏名: 中村元

夢のかけらを くもにまぐ TAKARABUNE 2023

群馬県で、大人と子供の居場所作りの為のバスアート寺子屋を6年間開催し、吹き出し等のテーマで、絵の展示を続けてきた中で、絵を通して人と温かく繋がる事はとても素敵な事だと実感し、相互に助け合い、学び合いながら、どの様な命も大切に出来る社会を目指す為のアート活動を様々な形でしていきたいと思っています。

命を大切にし、温かい気持ちで繋がるアート活動の一つとして、2020年には、人や様々な動物の似顔絵を描いたり、2021年からは、保護うさぎの施設「悠乳ゆうと」様からの依頼で、保護うさぎの里親になってくださった方へ、プレゼントとして、保護うさぎの似顔絵を描き続けてきました。

これからも、保護うさぎを含め、沢山の人や動物等の似顔絵を描く事で、絵を見る人も温かい気持ちになって頂けたら、嬉しいです。

今迄描いた似顔絵を絵本風の冊子にしていますので、興味を持って頂けたら、ご覧頂けると嬉しいです。

私のアートの活動にご興味を持って下さった方がいらっしゃいましたら、お気軽にお声がけください。

題名: 保護うさぎの似顔絵 氏名: 二口 幸絵

夢のかけらを くもにまぐ TAKARABUNE 2023

自分の描く水彩画において、「夢のかけらをくもにまぐ」とは常にやっている事のように思えます。

描きたい目標や技法があり、それを目指して奮闘するのですが、思い通りに行かない時にその状態を別の手法でカバーし、あたかもそれを目指していたかのように振舞うのです。

題名: 2度と無い、夢の瞬間を描き留める 氏名: M. HONDA

夢のかけらを くもにまぐ TAKARABUNE 2023

SMF Press 2010 vol.1→2023 vol.52

Archives

題名: SMF Press 2010 vol.1→2023 vol.52 Archives 氏名: 中村 隆

夢のかけらを くもにまぐ TAKARABUNE 2023

同じではないけれど似ている
似ているけれど同じではない
関連し無いのは、形が似ているからなのでしょうが、その様な「文字の羅索」も、載せて付けてみました。案の定、気が付かず関連してしまわれる方もいらして、冗長じゃないと、違和感があった方もいらしたとか。

同じなのは 平面と立体の作品
平面と立体の作品は 同じです
同じものでも、組み立てると別のものになるのです。あるはここからと、全く別のものが作られて出来ていて、pieceピースは peaceピース、貴方と共に形になる。

題名: まちがえやすい わ・ね 氏名: 西尾 陽子

plane ⇄ solid piece ⇄ peace

夢のかけらを くもにまぐ TAKARABUNE 2023

これまでの不安だった気持ちを涙型で表しました。プランコには、乗ってゆらゆらとゆれて楽しめるようになった気持ちを込めました。いずれは人が入れるくらいのものを作ってプランコに乗りたいです。

題名: ゆらゆらとゆれて 氏名: みやうか

夢のかけらを くもにまぐ TAKARABUNE 2023

上尾アートセンターの森久と申します。上尾アートセンターの2022年の活動の紹介を展示形式で皆さんに知ってもらいたいと思っています。現在はおフェの空き時間と空き空間を活用の拠点として活用させていただきながら、いろいろな企画を行っています。文化芸術を通じて情報を発信し、人が集まる場を作るビジョンに展示・実演など色々発信中です。

題名: 『THE archive 2022』 in the Ago Art Center 氏名: 森久(上尾アートセンター)

夢のかけらを くもにまぐ TAKARABUNE 2023

刻一刻と、雲は形を変えていく。
5分後には、全く違う形になっている。
空に浮かぶ雲は、常に形を変えながら動き、一定の場所に留まることもない。
時間の流れも同じこと。
あっという間に流れ続けて、刻み続ける。
いつの間にか過ぎ去っていった一緒に過ごした時間と、離れてからの時間。
記憶のかけらを散らすでもなく。
思い出を埋めるでもなく。
ただ、そこに置く。
父親が探した「くも」の絵を一番下に映かして…。
時間のレイアウトを作る。
積み重なっていく透明な時間。
ピントの合わないレンズのような、まだら模様の記憶たち。

題名: Layered/積み重ね 氏名: はた みき

夢のかけらを くもにまぐ TAKARABUNE 2023

題名: REC080_T45 氏名: 藤田 祐一郎

夢のかけらを くもにまぐ TAKARABUNE 2023

イメージ図

題名: 報告:「野島の豊洲2022さき山の現場再訪・分科と融合」より 氏名: 社会芸術/ユニット・ウルス

夢のかけらを くもにまぐ TAKARABUNE 2023

ワークショップの
重村三雄《風船の外側》を鑑賞してから、北浦和公園でお気に入りの技法を探します。
簡単！キッチン鋳造技法で、お気に入りの技法で鋳造を作るワークショップを行います。
※写真1は、展示作品《おんなものちこんなものち》のヤングコウの制作工程です。

①鋳造制作(原型をローラーフォームで採み込む) ②鋳型を取り出す ③湯浸、溝口をつくる

④鋳型をクランプで固定 ⑤鋳造を乾かす ⑥鋳型から取り出し、仕上げ ⑦完成(コトラーレスト)

題名: 簡単！キッチン鋳造技法で「北浦和公園で見つけた形で 鋳造を作ろう！」 氏名: 矢花 俊樹

SMF履歴書

■ 幼年期 (PRE SMF 時代)

- 2002年 ヒアシンスハウスをつくる会、発足
- 2004年 ヒアシンスハウス竣工
- 2006年 さいたまアート懇話会
- 2007年 さいたまアートフォーラム研究会

■ 少年期

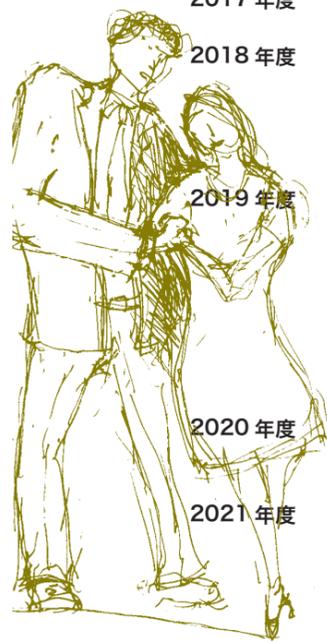
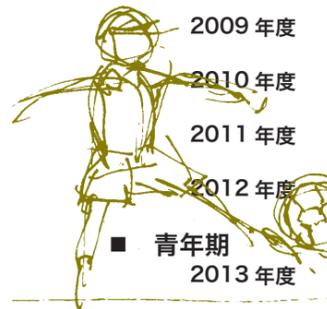
- 2008年度 SMF 発足
平成 20 年度 文化庁「芸術拠点形成事業」(ミュージアムタウン構想の推進)
LINK! ミュージアムからアートの風を!! 「風の記憶」…… アート竜巻フェスタ 2008
- 2009年度 平成 21 年度 文化庁「美術館・博物館活動基盤整備事業」
SMF アートのわっ! 「風の行方」…… あつまれアートのつむじ風 2009
- 2010年度 平成 22 年度 文化庁「美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業」
交差する風 織りなす場「風の軌跡」…… SMF アート楽座・アートバンク 2010
- 2011年度 平成 23 年度 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業 (ミュージアム活性化支援事業)
Saitama Art Platform 形成準備事業「つながる Heart Art」
- 2012年度 平成 24 年度 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業 (ミュージアム活性化支援事業)
Saitama Art Platform 形成準備事業「ひろがる」

■ 青年期

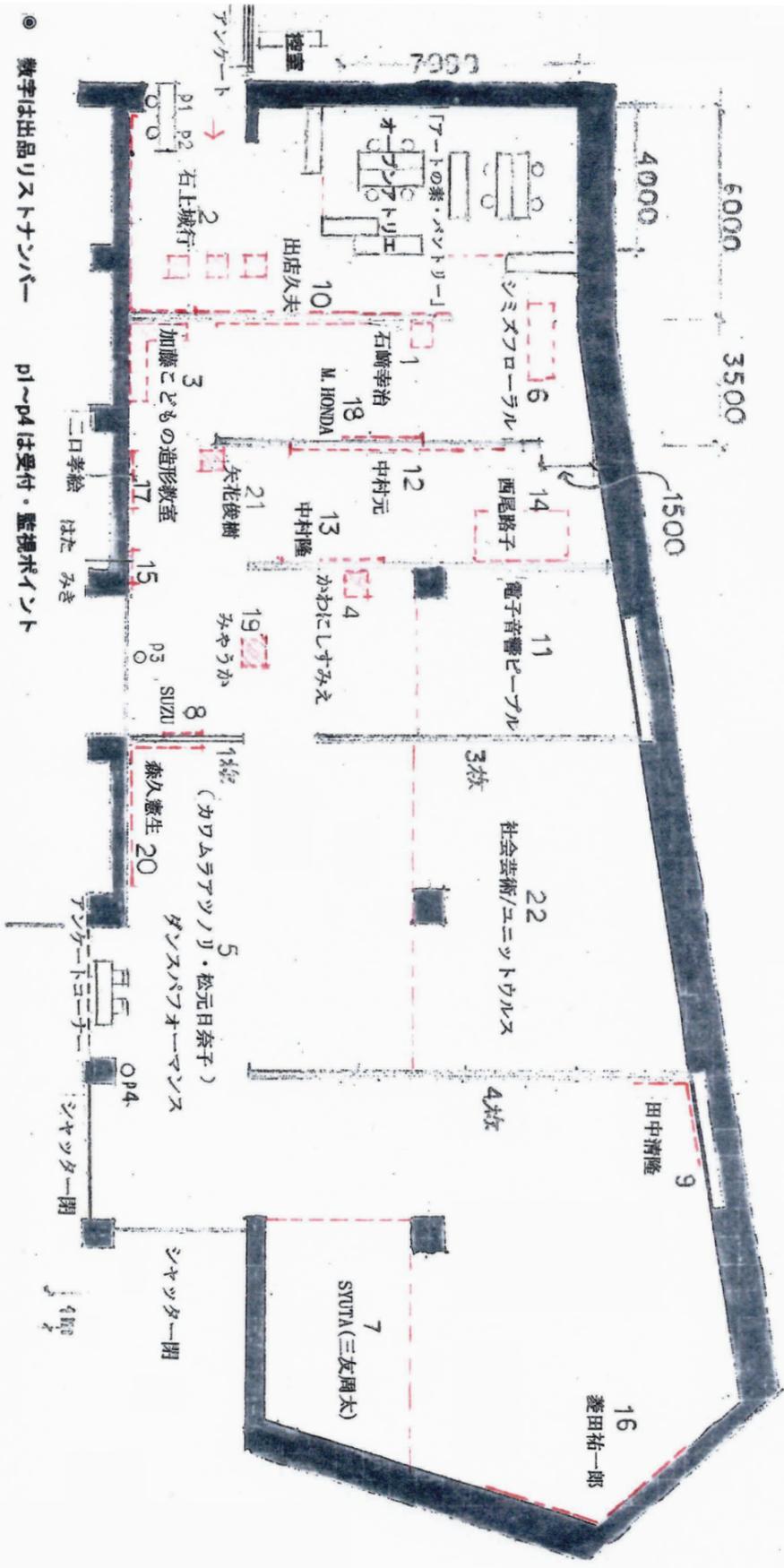
- 2013年度 SMF の組織化
(会則の作成、会員の会費による運営、フォーラムの開催とフォーラムの決議による運営)
- 2014年度 平成 26 年度 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業
あなたとどこでもアート「小さな家プロジェクト」(衣・食・住をテーマにした 3 年計画の初年「住」)
「アート長屋」建設
「アートのまつり」開催
- 2015年度 平成 27 年度 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
あなたとどこでもアート「着がわりプロジェクト」(衣・食・住をテーマにした 3 年計画の 2 年目「衣」)
「アート長屋」入居開始
「宝船展 I」開催
- 2016年度 平成 28 年度 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
あなたとどこでもアート「おかわりプロジェクト」(衣・食・住をテーマにした 3 年計画の最終年「食」)
「宝船展 II」開催
さいたまトリエンナーレ 2016 に参加
「SMF 学校」運営

■ 成年期

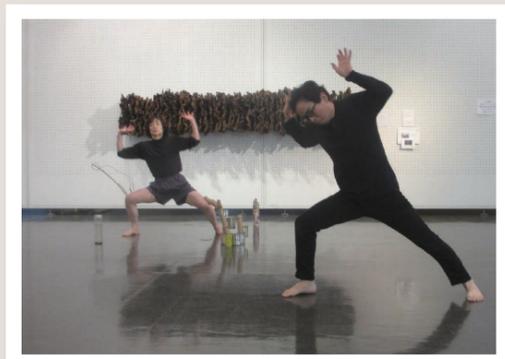
- 2017年度 組織化された SMF の自立した活動の初年
「宝船展 2018 @ MOMAS」開催
- 2018年度 親ばなれして自立しようとするれば、それなりに忙しい。
大宮アートフェスティバル 2018 で「SMF アートパーク」開催
入間市博物館では SYUTA さんのワークショップに柴山さんの「電子音響ピープル」
北浦和の商店街に光るきたらワンが現れたり、ハロウィンで「変身★自分仮面を作ろう」等々
「宝船展 2019 @ MOMAS」開催
- 2019年度 埼玉県立近代美術館「MOMAS のとびら」参加
「フワリつばさで鏡の国を飛んでみよう」
「美術館に象が遊びにきたゾウ!」
「化石発掘★簡単鑄造で古代の生き物をつくろう!」
「きたらわアートウィーク 花・花・花」(北浦和西口ハッピーロード・ふれあい通り) 参加
さいたま国際芸術祭 2020 公募プログラム「SMF 宝船展 2020」開催
宝船展 ON THE NET/ 宝船展 @雲をつかむ/ 宝船展 @ MOMAS
(宝船展 @ MOMAS はコロナ禍による埼玉県立近代美術館閉館により残念ながら中止)
- 2020年度 令和 2 年度オール埼玉で彩る文化プログラム公募事業「SMF with コロナ」開催
アート寺子屋 / アート井戸端 / 宝船展@アート長屋
「宝船展@ MOMAS2021」(くもをつかむ) 開催
- 2021年度 令和 3 年度オール埼玉で彩る文化プログラム公募事業
「SMF アートコロナプロジェクト-ヒアシンスハウス編」開催
埼玉県立近代美術館 MOMAS のとびらに協力
「和紙を貼って貼って○ランプ! □ランぷ!」
入間市博物館 ALIT の連携館ワークショップに協力「身近なもので楽器(カホネレ)を作ろう!」
「宝船展@ MOMAS2022」(くもをたがやす) 開催
- 2022年度 令和 4 年度 社会とつながる文化芸術活動助成事業
「アートの素・パントリー」開催
「TAKARABUNE 2023」(夢のかげらをくもにまく) 開催



TAKARABUNE 2023 会場レイアウト



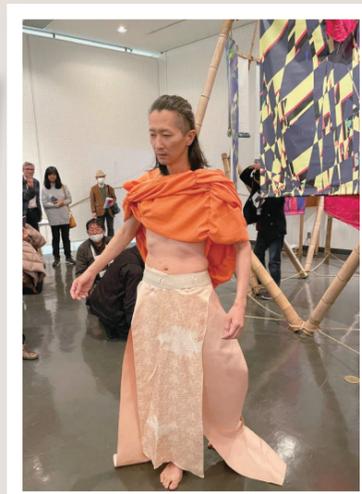
- 数字は出品リストナンバー p1~p4は受付・監視ポイント
- 1 石崎幸治《独自の世界をつくる》 ■ 2 石上城行《「土地の記憶」プロジェクト》 ■ 3 加藤こどもの造形教室《加藤こどもの造形教室 ~アールソニトラ~》
- 4 かわにしすみえ《人形と胸像と仲間/ミアグルオモイ》 ■ 5 カワムラアツリ・松元日奈子《drab》 ■ 6 シミズローラルデザインスクール《輝きを求めて》
- 7 SYUTA (三友周太)《雲集霧散=うんしゅうむさん》 ■ 8 suzu《私の夢はおまかせで》 ■ 9 田中清隆《影光浴「そのかけら」》 ■ 10 出店久夫《原因とソックアート》
- 11 電子音響ピープルプロジェクト《電子音響ピープルプロジェクト 2022》 ■ 12 中村元《写真 中村元の世界「ゴンちゃん仲間たち」干支 突現》
- 13 中村隆《SMF Press 2010 vol.1→2023 vol.52 Archives》 ■ 14 西尾路子《まちがえやすいわ・ね》 ■ 15 はたみき《Layered / 積み、重ね》
- 16 菱田祐一郎《RECORD_145》 ■ 17 ニロ孝絵《保護うさぎの似顔絵》 ■ 18 M. HONDA《?度と無い、夢の時間を描き留める》 ■ 19 みやうか《ゆらゆらとゆれて》
- 20 森久憲生(上尾アートセンター)《『THE archive 2022』 in the Ageo Art Center》 ■ 21 矢花俊樹《HASHIOKI「あんなもの こんなもの」》
- 22 社会芸術/ユニット・ウルス《報告:「野良の藝術 2022 さぎ山の現場III 熱・分解と融合」より》



①



③



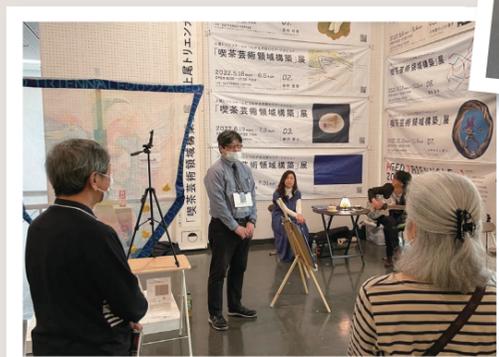
⑤



⑦



⑧



②



④



⑥



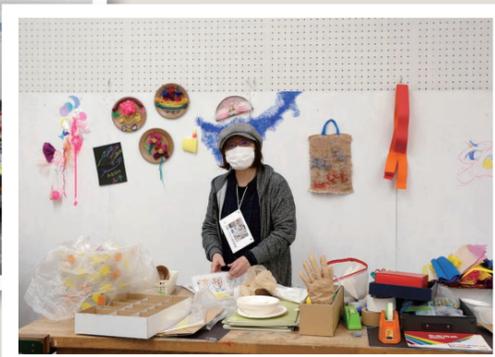
⑩



⑨



⑪



⑫

TAKARABUNE 2023 関連事業一覧

- 3月15日(水) 13:30 ~ 14:00
 アーティストトーク:加藤こどもの造形教室(加藤典子)、中村隆、二口孝絵、上尾アートセンター(森久憲生) ②
 14:00 ~ 15:00
 上尾アートセンター「アーカイブ 2022」より《人力ジュークボックス》出演:Blue Chameleon nono(Vo.), tessa(Gt.) ③
- 3月16日(木) 13:30 ~ 14:00
 アーティストトーク:出店久夫、中村元、はたみき
- 3月17日(金) 13:30 ~ 14:00
 アーティストトーク:菱田祐一郎、みゃうか、社会芸術 ユニットウルス(吉田富久一)
- 3月18日(土) 10:30 ~ 12:00
 アートの素・パントリー「自由創造ワークショップ」①親子で楽しもう!!(加藤典子、他) ⑫
 13:00 ~ 13:40
 社会芸術/ユニットウルス「野良の芸術 2022 さぎ山の現場Ⅲ 熱・分解と融合」より《炭化・土・草・体》出演:蒼浩人(踊り)・立松節子(布彫刻) ⑤
 13:30 ~ 14:30
 アーティストトーク:suzu、矢花俊樹、電子音響ピープルプロジェクト(東京電機大学柴山研究室)、社会芸術/ユニットウルス、M.HONDA、石上城行 ④
 14:00 ~ 15:30
 アートの素・パントリー「自由創造ワークショップ」②一人でじっくり!(矢花俊樹、他) ⑩
 15:45 ~ 17:15
 アートの素・パントリー「自由創造ワークショップ」③一人でじっくり!(SYUTA、他) ⑪
- 3月19日(日) 10:30 ~ 12:00
 アートの素・パントリー「自由創造ワークショップ」④親子で楽しもう!(みゃうか、他) ⑨
 12:30 ~ 12:45
 ダンスパフォーマンス《drab》出演:カワムラアツリ・松元日奈子 ①
 12:50 ~ 13:30
 社会芸術/ユニットウルス「野良の芸術 2022 さぎ山の現場Ⅲ 熱・分解と融合」より《炭化・土・草・体》出演:蒼浩人(踊り)・立松節子(布彫刻) ⑥⑦
 13:30 ~ 14:00
 アートの素・パントリー「自由創造ワークショップ」お楽しみ会 みんな集まれ こんなのできたよ!!(矢花俊樹、他)
 13:30 ~ 14:30
 アーティストトーク:シミズフローラルデザインスクール(清水和乃)、西尾路子、石崎幸治、かわにしすみえ、SYUTA、田中清隆 ⑧
 14:40 ~ 14:50
 パフォーマンスアート:菱田祐一郎

TAKARABUNE 何処へ

太陽からの陽射しを遮り、満天の星空を隠すのが雲です。能天気な青空や星屑には目もくれず、昨年はそんな邪魔者を耕し、今年はその夢のかけらをまいて明日の芽生えを待とうなんて、いかにもSMFらしいアンデパンダン展が終わりました。

4年前の宝船展、図工室をイメージしたオープンスタジオを想い出させるしつらえの「アートの素・パントリー」の賑わいがあり、この上の写真でも見られるようにコロナ禍収束の兆しを実感させた盛況と祭りのあとの寂しさを残し、TAKARABUNEはまた出帆しました。

空を見上げてください。雲はいつかとしてそこに止まることなく、元の姿かたちはすぐに失われてしまいます。風に流れそんな移ろいやすい雲にまた夢のかけらが芽吹き、来年また戻ってきたTAKARABUNEでどのような大きな夢に成長しているのかが楽しみです。

ところで「雲流るままに」という題名の映画があります。ジェローム・カーンの伝記映画で、主役は地味なロバート・ウォーカー、ヒチコックの「見知らぬ乗客」で偏執狂の犯人を演じた役者です。トニー・マーチンが歌う「ショーボート」の舞台から始まりシナトラの「オール・マン・リバー」で終わる。女性陣もジュディ・ガーランドに

リナ・ホーン、ダイナ・ショアが並び、シド・チャリシーも脇役で臨くという贅沢な配役でスクリーンを彩ります。

また「ドリー・シスターズ」という映画では小粒なケイリー・グラントといった趣のジョン・ペインとハリ・ジェームス夫人のベティ・グレイブルがショパンの旋律に乗せて「漂う雲を眺めながら、いつも虹をさがしている」と歌います。雲の行方にいずれ虹が見られるのでしょうか。

ヒチコック好みの2枚目俳優も往年の派手なトランペッターも、いずれも僕の最良だったので、ついこれらの映画に喩えてみたくなりました。

それはさておき、まかれた夢のかけら同士が結びつき、さらに大きく華やかな夢に成長する。ハリウッド映画さながらの楽天的な虹を夢見つつTAKARABUNEの帰港を待つのも悪くはない。みなさん、また来年も夢で逢いましょう。ペリー・コモ ショーのエンディングテーマでも口ずさみながら、「On a cloud of love, we'll hear the music of night. …… Dream along with me. I'm on my way to a star」と。
 三浦清史(SMF代表、建築家)

TAKARABUNE 2023 「夢のかけらを くもにまく」 来場者アンケート回答概要

回答者数／来場者数 (%)：全体 66／717 (9.2%)
3/15 10／96 (10.4%)、3/16 19／123 (15.4%)、3/17 17／83 (20.5%)、3/18 13／139 (9.4%)、3/19 7／276 (2.5%)
平日の方が総じて回収率が高かった。土曜は雨で例年より来場者が少なかった。日曜は各種イベントで来場者数が最も多かったが、15時終了で時間が限られたせいか、回収率は最も低かった。

以下 **A～Mの太字**は設問。自由記述は原文のまま表記した。

A どちらにお住まいですか：近隣区が半数近く、一方で3人に1人はさいたま市外から、5人に1人は県外から
1. **さいたま市** 29／66 (44.0%)、2. **さいたま市以外の埼玉県** 22／66 (33.3%)、3. **埼玉県外** 15／66 (22.7%)
1.さいたま市内訳：浦和区 11、中央区 6、南区 4、緑区 3、桜区 2、大宮区・北区各1、記述なし1
2.さいたま市以外の埼玉県内訳：新座市 5、蕨市・川口市・桶川市・和光市・富士見市・越谷市・三郷市・幸手市・入間市・伊奈町各1、記述なし7
3.埼玉県外内訳：東京 5、神奈川 3、栃木・愛知・北海道各1、記述なし4

B ご年代を教えてください：1.小学生以下 0、
2. **中・高・大学生** 2／66 (3.0%)、3. **20代・30代** 7／66 (10.6%)、
4. **40代・50代** 25／66 (37.9%)、5. **60才以上** 32／66 (48.5%)
1～3で14%弱と若い世代が少なかった。

C 今日は何人で来られましたか：一人で が最多、二人で が約3分の1、3人以上は極めて少なかった
1. **一人で** 41／66 (62.2%)、2. **二人で** 23／66 (34.8%)、3. **三人で** 1／66 (1.5%)、4. **四人以上で** 1／66 (1.5%)

D この催しをどこでお知りになりましたか?：1. **知人の紹介** 29／66 (43.9%)、2. **SMFのホームページ** 3／66 (4.5%)、3. **チラシを見た** 8／66 (12.1%)、4. **ポスター掲示** 4／66 (6.1%)、5. **知らなかった** 24／66 (36.4%)
知人の紹介が44%と最多で出展者・関係者の声掛けの成果か。一方で知らなかったも36%で近美に来て立ち寄ってくれた方も3分の1強。チラシ、ポスターは配布等きわめて少数数ながら、効果も認められる。

E この会場に来られた目的を教えてください：TAKARABUNE 2023及び知人の作品を見るために92%以上
1. **展覧会を見るため** 40／66 (60.6%)、2. **知人の作品を見るため** 21／66 (31.8%)、3. **ワークショップに参加するため** 1／66 (1.5%)、4. **特にない**・その他 (自分の個展・公園に来た各1) 8／66 (12.1%) *複数回答含む

F 今回が7回目ですが、これまでに宝船展をご覧になったことがありますか?
1. 1～2回見た 6／66 (9.1%)、2. 3～4回見た 14／66 (21.2%)、3. **ほぼ毎回見ている** 3／66 (4.5%) 4. **今回初めて見る** 43／66 (65.2%)
初めてが約3分の2、一方でリピーターも約4分の1

G TAKARABUNE (宝船展) がプロ、アマやジャンル、団体の垣根を越えて夢を共有する場だとご存知でしたか?
1. **知っていた** 6／66 (9.1%)、2. **何となく聞いたことがある** 14／66 (21.2%)、3. **知らなかった** 35／66 (53.0%)、4. **よく分からない**・無回答 計10／66 (15.2%)
知らなかった、よく分からない が3分の2以上

H 「夢のかけらを くもにまく」の展示をご覧になっていかがでしたか?：とてもよかった、よかったが88%
1. **とてもよかった** 26／66 (39.5%)、2. **よかった** 32／66 (48.5%)、3. **あまりよくなかった** 2／66 (3.0%)、4. **よくなかった** 1／66 (1.5%)、5. **その他** (「よく分からなかった」、 「難しかった」各1) 2／66 (3.0%) 無回答3

／66 (4.5%)
「とてもとてもとてもよかった」
「どの作品も発創がすばらしく、とても楽しく、説明を読むと更に考えさせることもある。ありがとうございました。」
「東京にあるギャラリーで働いています。自分の勤めているギャラリーは、イラストレーターの方がほとんど使われるギャラリーなので、立体的な美術作品を展示しないため、とても新鮮で楽しい時間でした。」

I 作品の脇にあるエントリーシート (夢のシート) やキャプションは作品に近づく助けになりましたか?
1. **とても役立った** 17／66 (25.8%)、2. **役立った** 31／66 (47.0%)、3. **あまり役立たなかった** 4／66 (6.0%)、4. **役立たなかった** 0、5. **その他** (「自分には少し字が小さかった」) 1／66 (1.5%)、無回答 13／66 (19.7%)
無回答者を除く回答者の91%がとても役立った、役立ったと回答。「もう少し字が大きいと見易かった。60代にはちょっと見辛かった。」(とても役立ったの回答者)
「作者の方がどのくらいの日数をかけて作られたかを知ってから見ると、そうでなく見るのでは、作品への興味がわく数が変わると思いました」(同)

J アートの素・パントリーのコーナーにお越しいただいた方、ご参加いただいた方は、ご感想をぜひ教えてください。
1. **水～金にフリーで作品づくりに参加** 1／66 (1.5%)、2. **土日のワークショップに参加** 3／66 (4.5%)、3. **観客としてのぞいた** 22／66 (33.3%)
無回答 40／66 (60.6%)
ワークショップ参加者には別途声掛けや聞き取りをしているためか、参加者の回答は少なかった。

「自由に楽しく工作させていただきました (^o^)/」
「製作が好きなので楽しめました。普段とは違う素材があり、おもしろかったです。」(以上、参加者の声)
「時間的に参加できず残念でした。楽しそうでした。」「次代につなぐために良いワークショップです!」
「平日はだれもいなかった。土よう日は子供がいた」(以上、観客としてのぞいた方々の声)

K 特に印象に残った作品や応援したい夢などがありましたら、お教えてください。
「それぞれ個性があり、おもしろかったです」「どの作品も素晴らしかったです」「どれも良かったです」
「花火の写真。今までのイメージとちがって新しい物をかんじました。電機大の音の映像もおもしろかった」
「花火の写真 (番号忘れました)、7、10」「電子音響ピープルプロジェクトに印象を受けました」
「銀河大星雲のような作品!」「うさぎの画集、ユニコーン」「8 春らしいイメージで可愛かったです」

「3、6、1、18 子供達の作品、造形品、デッサン」「石崎幸治さん、中村元さん」「写真 他、みぬまタンポ」
「やはり実物を見ると出店さんの作品はすごいと言わざるを得ない。印刷物や Web だと単純なフォトコラージュに見えてしまうので」「出店さんの作品群」「出店久夫さんの原因とブックアートが素晴らしかったです」
「喫茶店アートがよかった。10もよかった。中村元さんの作品もよかった」(3/15 人力ジュークボックスイベント関連)「歌とギター」「水彩画と音楽。ボーカルの女性の声がとてもきれい」
「小6の女の子：17、50代の母：15、22、共通：19」「水彩ハガキ」
「14 まちがえやすい いいわね…おもしろい!! 立体⇄平面 ますますみがかがかかってステキです!! さすがプロだね!」
「14 いつもかわいらしい作品ですね!」
「4 かわにしすみえさん 伝統と新しさ、思いが込められているのを感じました」
「18 M.HONDAさんの作品が自分のなつかしいと思う風景だったり、車の絵も自分の好きな感じで良かったです。販売していたら購入したいと思いました。」

「雲集霧散は、夢は『雲のように集まり霧のように散っていく』というコンセプト、イメージが素敵で、作品にそのコンセプトが出ていたと思います。suzuさんが描いているユニコーンがまさに幻獣という感じでした。かわいくて触れたくなるというより、遠くから見守っていたと思うユニコーンでした。素敵です」

No.12(中村元さん)が9票で最多、次いでNo.7(SYUTAさん)が6票、No.1(石崎さん)・No.10(出店さん)・No.14(西尾さん)・No.18(M.HONDAさん)が各5票、No.8(suzuさん)・No.17(二口さん)が各4票、No.3(加藤こどもの造形教室)・No.11(電子音響ピープルプロジェクト)・No.20(森久憲生[上尾アートセンター])、No.22(社会芸術/ユニットウルス)が各3票、No.6(シミズフローラルスクール)2票、他は1票

L SMF(サイタマミュージズフォーラム)やその活動についてご存知でしたか?
1.**活動に参加・協力した** 2／66(3.0%)、2.**知っていた** 5／66(7.6%)、3.**聞いたことがある** 5／66(7.6%)、4.**知らなかった** 28／66(42.4%)、5.**よく分からない** 7／66(10.6%)、無回答19／66(28.8%)
無回答を除くと1～3の合計で約25%、会場に来られた方の75%はSMFについてご存じない方々と推定される。

M その他、TAKARABUNE 2023やSMFについてご意見ご感想など、ご

TAKARABUNEの15年 略年譜

・2009年～：埼玉県内外で意欲的な活動を展開するアーティストやアート関係者が出会い交流し、新たな動きを育む場としてSMF《ラウンド・テーブル》*を埼玉県立近代美術館等で毎年のように開催を続ける。
・2013年1月8～13日：夢を共有し協働を試みる場として、SMF《さんすび展》*を埼玉県立近代美術館で開催。名称は初夢の「一富士、二鷹、三茄子」による。
・2015年1月12日：1日限りの交流展覧会&ライブSMF《アートのまつり》*を宮代町の進修館で開催
・2015年3月：インターネット上のアートプラットフォームをめざし「SMFアート長屋」*を始動
・2016年1月13～17日：SMF《宝船展》埼玉県立近代美術館、on the net 併催
・2016年9月24日～12月11日：さいたまリエンナーレ2016に招聘され《SMF学校》開校・運営 市民会館おおみや 旧地下食堂スペース
・2017年1月11～15日：SMF《宝船展「旅」》*埼玉県立近代美術館、on the



撮影：中村元

自由にお書きください。
3/15:「一作品、一作品とても良く、いやされました。ありがとうございます。」「また来ます!」「参加したい」
3/16:「はなやかでとても楽しかった!」この活動が面白いと感じました」
「入口にペットボトルを使った大きな作品があったり、しずくの中にブランコが入っている粘土作品。奥に進むと木や布、針金や光を使った作品がたくさんあり、歩けば歩くほど刺激的で楽しい世界に引き込まれていきました。中へ進むほど視覚、聴覚を強く魅了されていく構造の展示の仕方も、とっても楽しかったです。ありがとうございました。」
3/17:「作者の方にお話をきけるのが楽しかったです。より作品を作る目的などがわかりました!」又、楽しみです」
3/18:「毎年楽しみにしています。ありがとうございました!」毎回のテーマの出し方がオモシロイ」
「作品から自由・希望・ぬくもりなど感じました。楽しいです」
3/19:「北浦和西口商店街の回遊美術館から11年たって、久しぶりにSMFの活動に触れました。ささくっていた心が鎮まります!」自由度が高く、作家一人一人の個性を感じられる良い展示でした」

会期中5日間、毎日実施し貴重なご意見や励みとなるお声をいただきました。ご協力たいへんありがとうございました。今後の活動に活用させていただきます。

TAKARABUNE 2023 担当 中村誠

net併催
・2018年1月10～14日：SMF《宝船展2018 もの こと ゆめの 交換》埼玉県立近代美術館、on the net併催
・2019年1月16～20日：SMF《宝船展2019 オープンスタジオ 創造の海へ》埼玉県立近代美術館、on the net併催
・2020年1月20日～3月13日予定：SMF《宝船展 くもをつかむ》**さいたま国際芸術祭2020アネックスサイト・旧大宮図書館、ネット上でも併催するが、実展示はコロナ感染拡大に伴い中途終了、3月18日～22日開催予定の《宝船展 くもをつかむ@MOMAS》は埼玉県立近代美術館閉館により中止
・2022年3月16～20日：SMF《宝船展 くもをたがやす》埼玉県立近代美術館
・2023年3月15～19日：SMF《TAKARABUNE 2023 「夢のかけらを くもにまく」》埼玉県立近代美術館

註 *を付した事業は、文化庁の委託・助成事業として実行委員会制で実施、SMFが企画運営のコアとなった。**は、さいたま国際芸術祭2020公募プログラムとして実施

TAKARABUNE 2023 「夢のかけらを くもにまく」

会期：2022年3月15日～19日
会場：埼玉県立近代美術館 一般展示室1
主催：SMF(サイタマミュージズフォーラム)
共催：埼玉県立近代美術館
会場レイアウト：長野恒
アートの素・パントリー会場設営協力：埼玉大学石上城行研究室
会場運営協力：東京電機大学柴山研究室
告知報道：読売新聞 3月11日夕刊

TAKARABUNE 2023 「夢のかけらを くもにまく」ワーキンググループ
加藤典子、かわにしすみえ、柴山拓郎、長野恒、中村隆、中村誠、三浦清史、三友周太、森久憲生

TAKARABUNE 2023「夢のかけらを くもにまく」記録集

発行：SMF(サイタマミュージズフォーラム)
http://www.artplatom.jp (SMFホームページ)
http://www.artnagaya.jp (SMFアート長屋)

編集：中村誠
デザイン・印刷：有限会社アームズ(中村隆)
写真撮影：中村元、石崎幸治、中村誠、各出展者
2023年6月8日発行



